第１回　向日市地域福祉計画策定・推進委員会次第

日時：令和７年７月２９日（火）
１４時～
場所：永守重信市民会館

１　開　　会

２　委員の紹介

３　議　　事

（１）委員長の選任

（２）副委員長の指名

（３）会議の公開について

（４）計画の概要とスケジュール

（５）アンケート結果の概要について

（６）その他

４　閉　　会

【資料１】

向日市地域福祉計画策定・推進委員会　委員名簿

	役　　職	肩　書	氏　名
学識経験者	京都光華女子大学 看護福祉リハビリテーション学部 リハビリテーション学科　社会福祉専攻	教授	石井　祐理子
高齢者関係団体	向日市老人クラブ連合会	会長	橋本　正治
障がい者関係団体	向日市身体障害者協会	会長	山本　啓子
自治会	寺戸町自治連合会		籠谷　康
ボランティア関係者	向日市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会	委員長	佐野　とし子
福祉関係機関	向日市民生児童委員連絡協議会		亀山　明子
児童福祉機関	向日市主任児童委員		前坂　あや子
福祉事業者	向日市社会福祉協議会	地域福祉推進課 兼任課長	芦谷　佐知子
福祉事業者	向日市中地域包括支援センター	課長	村上　雅代
福祉事業者	相談支援事業所・地域活動支援センター アンサンブル	所長	石田　早苗
市民公募			麝嶋　通人

地域福祉計画策定・推進委員会　幹事名簿

所　属	役　職		氏　名
向日市	市民サービス部長		柴田　晶子
向日市	市民サービス部副部長兼高齢介護課長		伊藤　雅子
向日市	福祉事務所長兼こども家庭センター所長		紺野　砂織
向日市	主席課長兼子育て支援課長		大野　正美
向日市	障がい者支援課長		岩谷　誠司
向日市	健康推進課長		藤野　剛志
向日市	子ども家庭課長		訳合　由惠
向日市	地域福祉課長		田口　慎也

第３期向日市地域福祉計画及び第２期向日市自殺対策計画の策定について

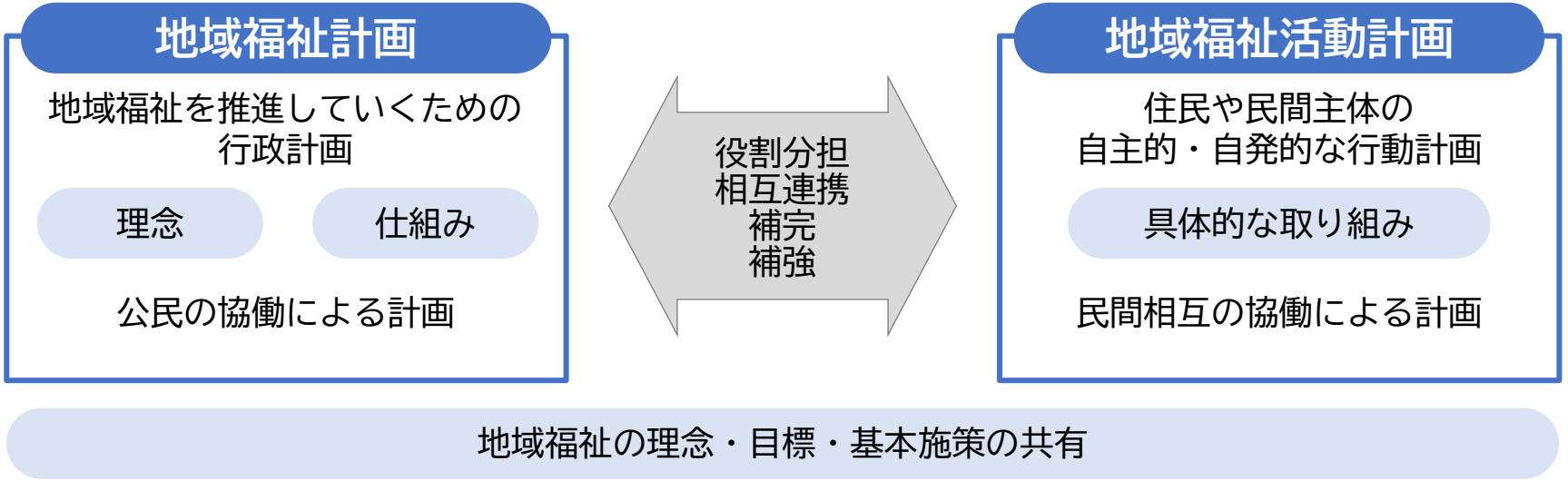
地域福祉計画と地域福祉活動計画

地域福祉計画

「地域で助け合い、支え合えるまちづくり」を推進し、地域共生社会（住民一人ひとりのくらしと生きがい、地域をともに創っていく社会）の実現を目指すための「理念」と「仕組み」をつくる行政計画（社会福祉法第１０７条）

地域福祉活動計画

「地域福祉計画」が掲げる理念を実現するため、社会福祉協議会が中心となり、地域住民や住民自治組織、民生委員・児童委員、ボランティア団体、ＮＰＯなどの民間団体、福祉関係事業所等による福祉活動の自主的・自発的な行動計画



地域福祉の推進を目的として相互に連携する必要があります

第３期向日市地域福祉計画及び第２期向日市自殺対策計画の改定

地域福祉計画（地域福祉活動計画）の経過

平成12年 6月	改正社会福祉法施行 平成15年4月以降、 市町村は「地域福祉計画」を策定することが規定された
平成14年 4月	向日市社協第1次地域福祉活動計画策定
平成18年 3月	第1期向日市地域福祉計画策定
平成23年 3月	第1期第2次向日市地域福祉計画策定 向日市社協第2次地域福祉活動計画策定
平成28年 4月	改正自殺対策基本法施行 市町村の自殺対策計画の策定が「努力義務」となる
平成28年10月	第2期向日市地域福祉計画（前期計画）策定
平成29年 3月	向日市社協第3次地域福祉活動計画策定
平成30年 4月	改正社会福祉法施行 市町村の地域福祉計画策定が「努力義務」となる
令和 3年 3月	第2期向日市地域福祉計画（後期計画）策定 第1期向日市自殺対策計画策定（地域福祉計画と一体）
令和 5年 3月	向日市社協第4次地域福祉活動計画策定

第２期（後期）計画で掲げた理念と将来像

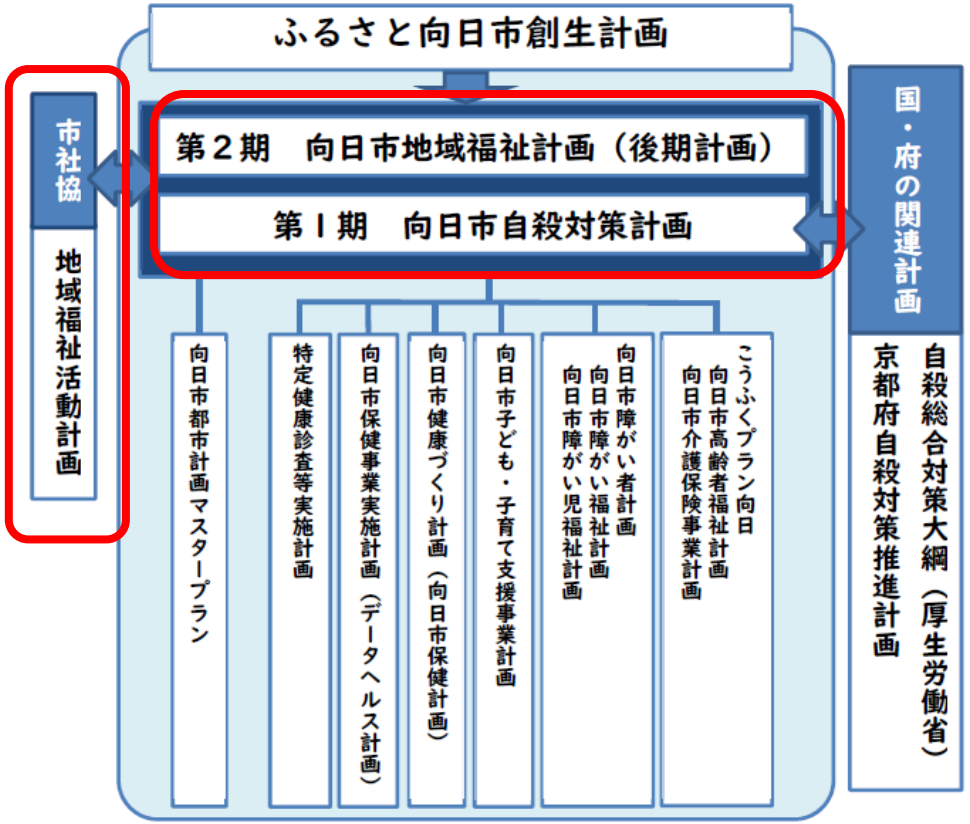
基本理念

人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

将来像

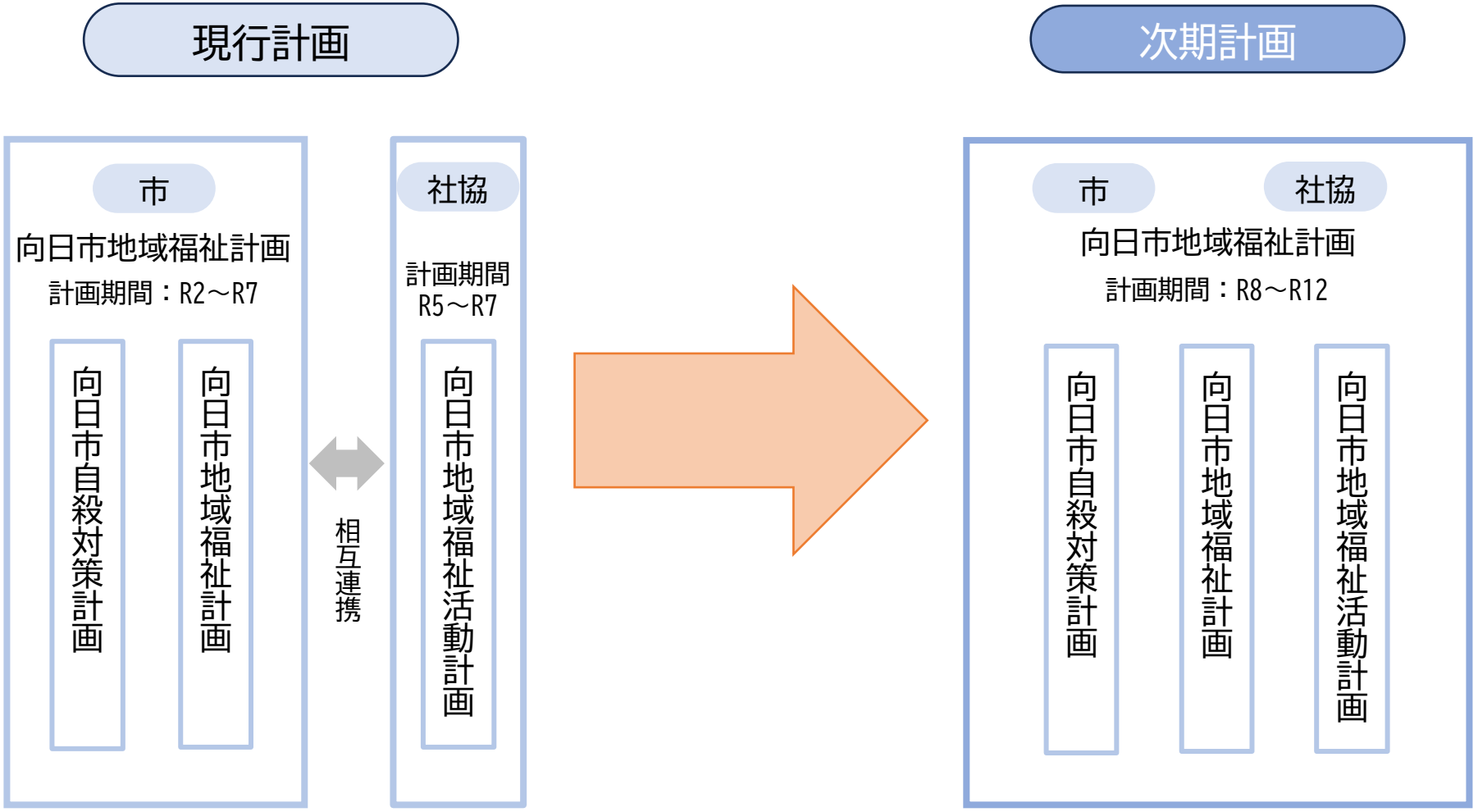
お互いの顔が見え、地域で共に支え合い、いきいきと暮らせるやさしいまち

地域福祉計画と他の計画との関係



第３期向日市地域福祉計画の構成

本市が目指す地域福祉の方向性を示す「地域福祉計画」と、地域福祉の実施機関として中心的な役割を担う社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」は、本市の地域福祉の推進を目的として相互に連携する必要があることから、行政と社会福祉協議会の協働により、両計画を一体的に策定し、同じ理念や方向性をもって向日市の地域福祉を推進していくものとします。



法律・条例等の制定・改正や新制度の実施等に伴う新規検討事項

現行計画

向日市地域福祉計画
基本目標１　地域での支え合いの推進
基本目標２　地域福祉活動を推進する仕組みの強化
基本目標３　一人ひとりに合った適切なサービス利用の促進
基本目標４　地域ぐるみの安心・安全対策の推進

向日市自殺対策計画
基本目標１　市民への啓発と周知
基本目標２　自殺対策を支える人材の育成
基本目標３　地域におけるネットワークの強化
基本目標４　生きることの包括的な支援

市社会福祉協議会　地域福祉活動計画
基本目標１　人と人との「つながりづくり」
基本目標２　地域を担う「人づくり」
基本目標３　安心して生活できる「仕組みづくり」

各種法令の改正
アンケート結果の反映
第２期計画の評価

次期計画

前回計画策定時からの主な法律改正や制度改正等

地域福祉
・社会福祉法の改正
・孤独・孤立対策推進法の制定

高齢福祉分野
・介護保険法の改正
・共生社会の実現…認知症基本法の制定
・全世代型…健康保険法の改正

障がい福祉分野
・合理的配慮の提供義務化…障害者差別解消法の改正

児童福祉分野
・こども基本法の制定
・児童福祉法の改正

その他の関連分野
・成年後見制度の利用促進と中核機関等の整備
・地方再犯防止推進計画の策定の努力義務化
・災害対策基本法の改正
・包括的な支援体制の整備

など

【資料３】

策定スケジュール

時期	実施内容
７月２９日	**第１回策定委員会開催**
８月～９月	関係機関ヒアリングの実施
９月～10 月	計画骨子案の作成
10 月中旬	**第２回策定委員会開催**
10 月～12 月	計画素案の作成
12 月中旬	**第３回策定委員会開催**
１月	パブリックコメントの実施
２月	パブックコメントの取りまとめ 計画書最終調整
３月上旬	**第４回策定委員会開催**
３月末	計画の策定

【資料４】

向日市
地域福祉に関するアンケート調査
調査結果報告書

令和７年３月

向　　日　　市

目次

Ⅰ　調査の概要 1
１　調査の目的 1
２　調査対象 1
３　調査期間 1
４　調査方法 1
５　回収状況 1
６　調査結果の表示方法 1

Ⅱ　調査結果 2
（１）回答者属性 2
（２）地域とのかかわりについて 5
（３）地域福祉活動について 12
（４）地域福祉活動の拠点や情報源について 19
（５）地域での支え合いについて 22
（６）社会福祉協議会について 32
（７）こころの健康や自殺対策について 37
（８）地域福祉の推進について 41

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

令和３年３月に策定した「第２期向日市地域福祉計画（後期計画）及び第１期向日市自殺対策計画」の計画期間が令和７年度に満了となることから、令和８年度からスタートする「第３期向日市地域福祉計画（前期計画）及び第２期向日市自殺対策計画」の策定に向けた基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

2　調査対象

市民 18 歳以上 1,000 人（男女各 500 人）を住民基本台帳から無作為抽出

3　調査期間

令和７年１月 16 日から令和７年１月 31 日

4　調査方法

郵送による配布・回収及び WEB による回答

5　回収状況

発送数	回答数	有効回答率
1,000 件	342 件 （うち、WEB 回答 72 件）	34.2%

6　調査結果の表示方法

・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。

・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。

・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

・回答者数が１桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が１桁の場合は、コメントを差し控えています。

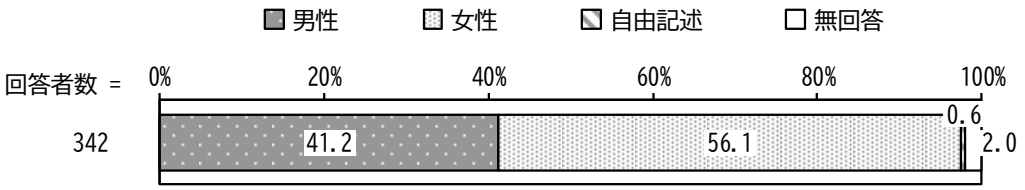
・クロス集計については、１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としています。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、３項目以上に網掛けをしている場合があります。

Ⅱ　調査結果

（１）回答者属性

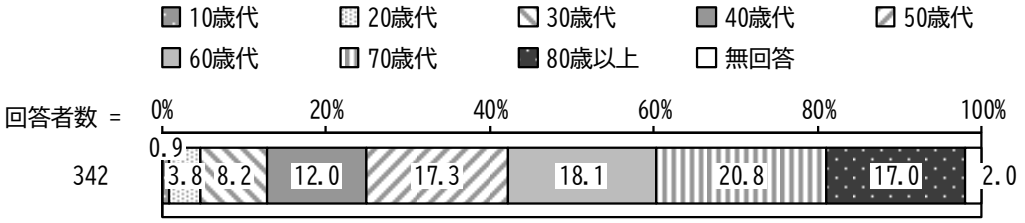
問１　あなたの性別を教えてください。【１つだけに○】

回答者の性別は、「男性」の割合が41.2%、「女性」の割合が56.1%となっています。



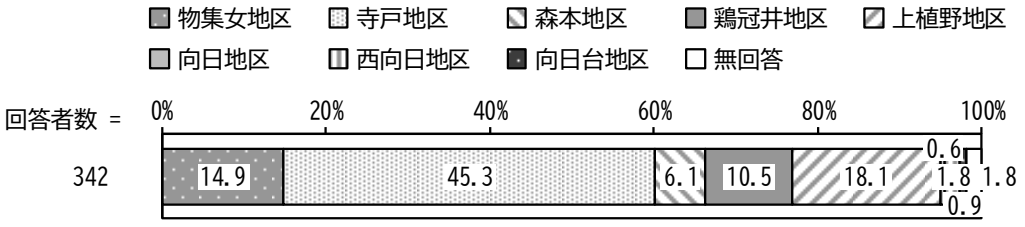
問２　あなたの年齢（令和７年１月１日現在）を教えてください。【１つだけに○】

回答者の年齢は、「70歳代」の割合が20.8%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が18.1%、「50歳代」の割合が17.3%となっており、『60歳以上』が半数以上を占めています。



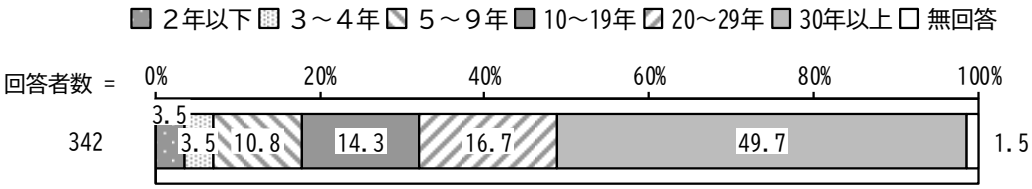
問３　あなたのお住まいの地区は次のどれですか。【１つだけに○】

回答者の居住地区は、「寺戸地区」の割合が45.3%と最も高く、次いで「上植野地区」の割合が18.1%、「物集女地区」の割合が14.9%となっています。



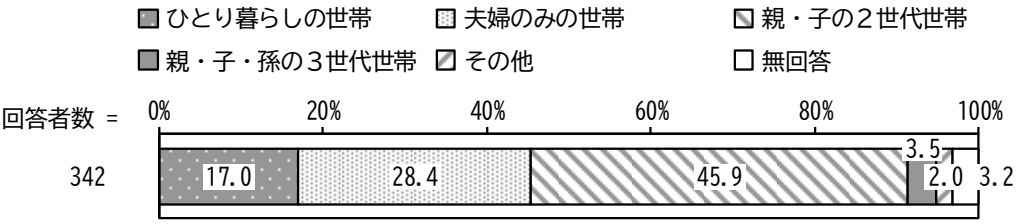
問４　あなたは向日市に住んで通算何年になりますか。【１つだけに○】

向日市での居住年数は、「30年以上」の割合が49.7%と最も高く、次いで「20～29年」の割合が16.7%、「10～19年」の割合が14.3%となっています。



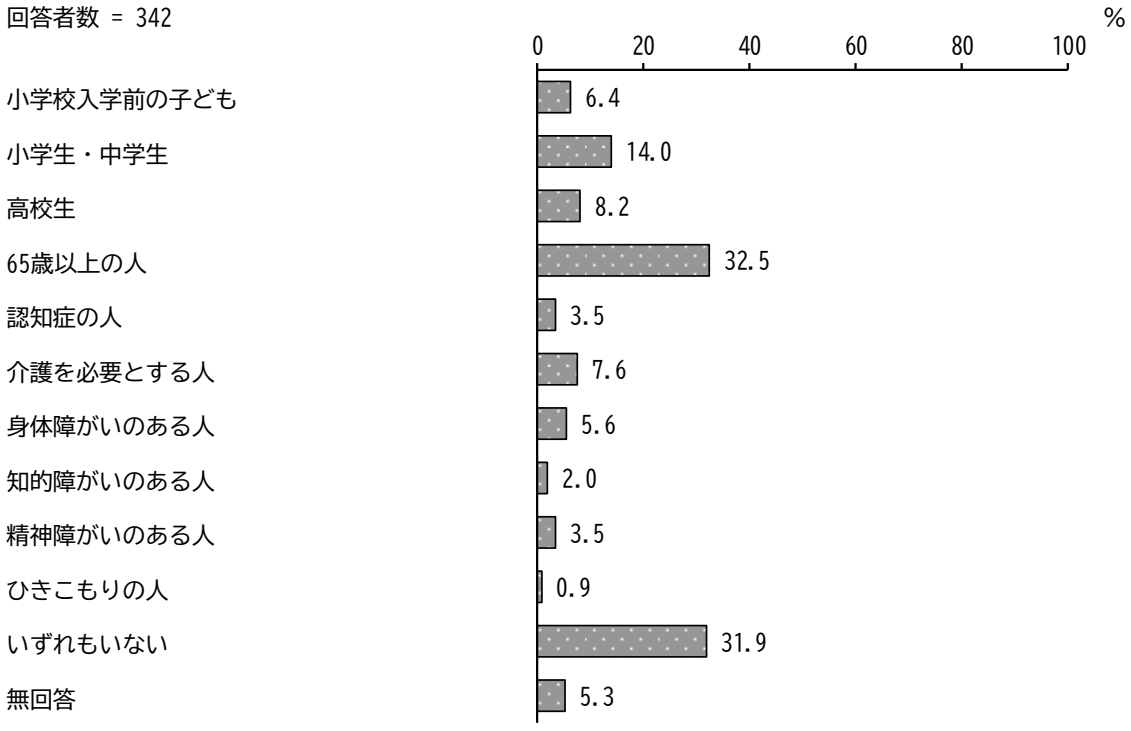
問５　あなたの世帯構成を教えてください。【１つだけに○】

世帯構成については、「親・子の２世代世帯」の割合が45.9%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」の割合が28.4%、「ひとり暮らしの世帯」の割合が17.0%となっています。



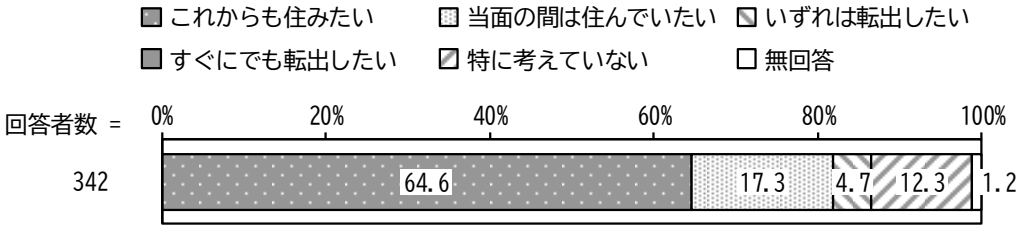
問６　現在、あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような人はいますか。【あてはまるもの全てに○】

同居している家族については、「65歳以上の人」の割合が32.5%と最も高く、次いで「いずれもいない」の割合が31.9%、「小学生・中学生」の割合が14.0%となっています。



問７　あなたはこれからも向日市に住みたいと思いますか。【１つだけに○】

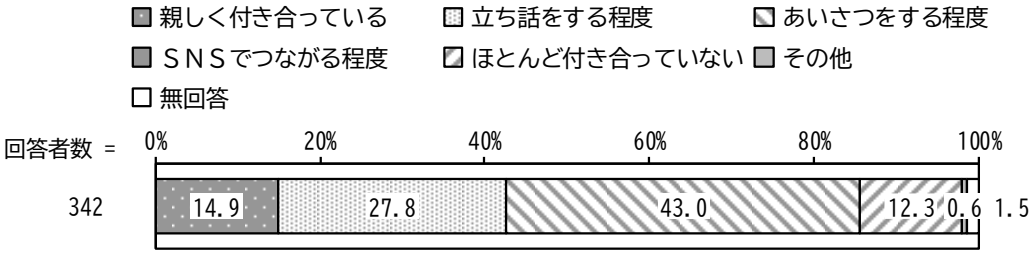
向日市での定住意向については、「これからも住みたい」の割合が64.6%と最も高く、次いで「当面の間は住んでいたい」の割合が17.3%となっており、８割以上の人は『今後も住みたい』と回答しています。



（２）地域とのかかわりについて

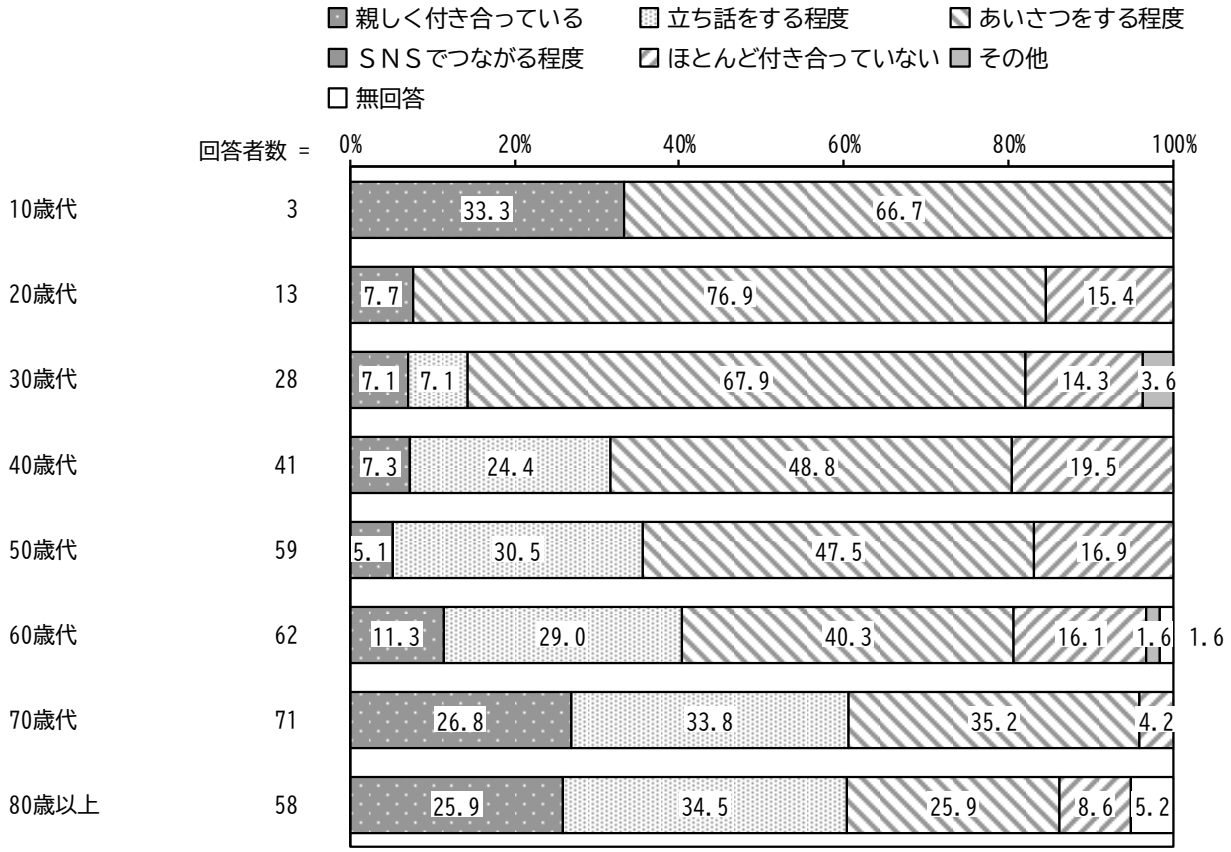
問８　あなたはどの程度、近所付き合いをしていますか。【１つだけに○】

近所付き合いの程度については、「あいさつをする程度」の割合が43.0%と最も高く、次いで「立ち話をする程度」の割合が27.8%、「親しく付き合っている」の割合が14.9%となっています。一方で、「ほとんど付き合っていない」が１割を超えています。



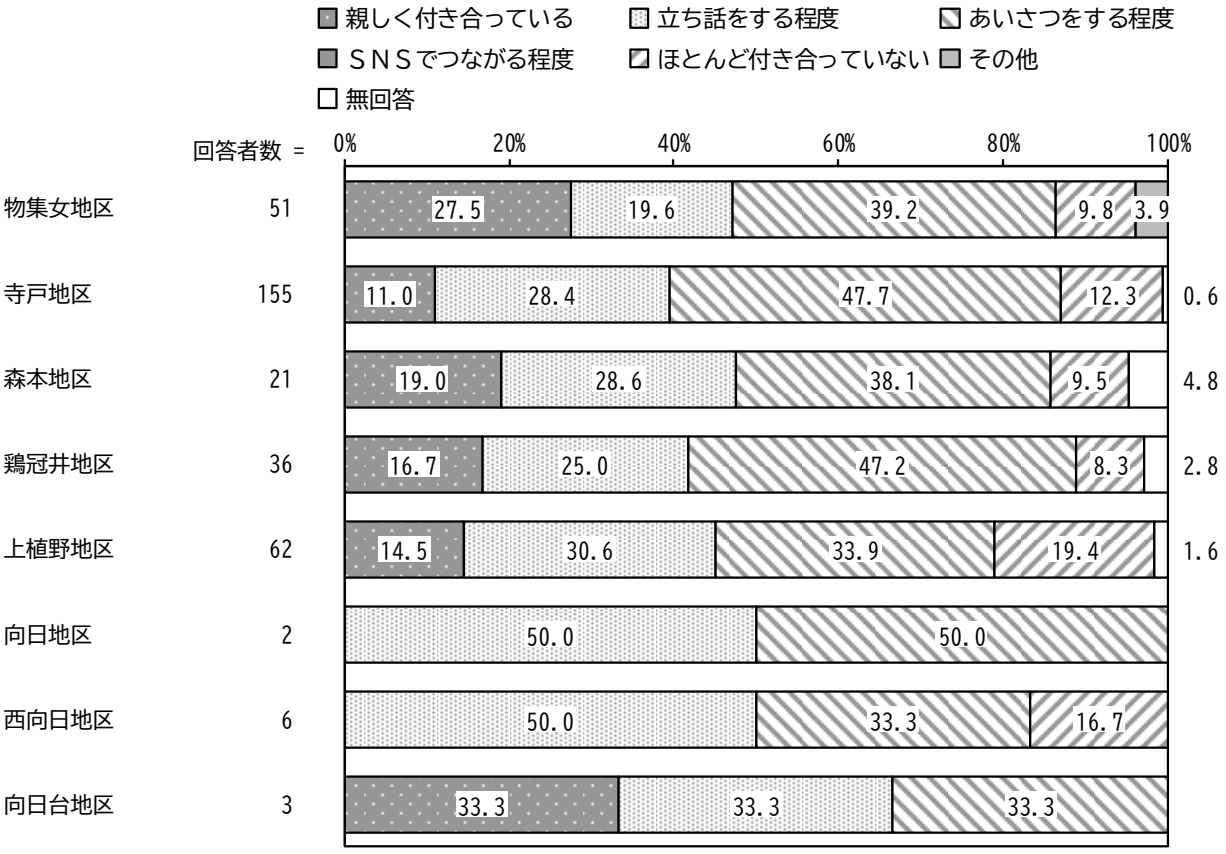
【年齢別】

年齢別にみると、70歳代以上で「親しく付き合っている」の割合が２割台、「立ち話をする程度」の割合が３割台と、他の年代に比べて高くなっています。一方で、「あいさつをする程度」の割合は若い年代ほど高くなっています。



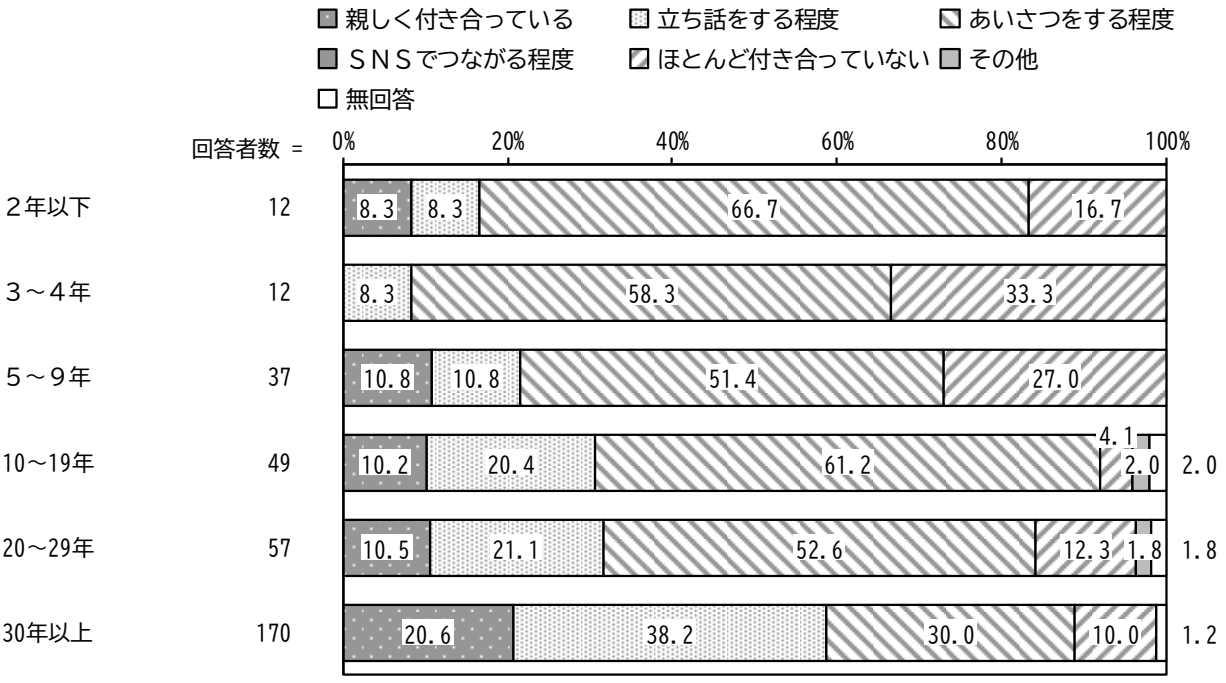
【地区別】

地区別にみると、いずれの地区も「あいさつをする程度」が最も多く、「親しく付き合っている」では物集女地区が27.5%で最も高い割合となっています。一方、「ほとんど付き合っていない」の割合は、上植野地区が19.4%で最も高くなっています。



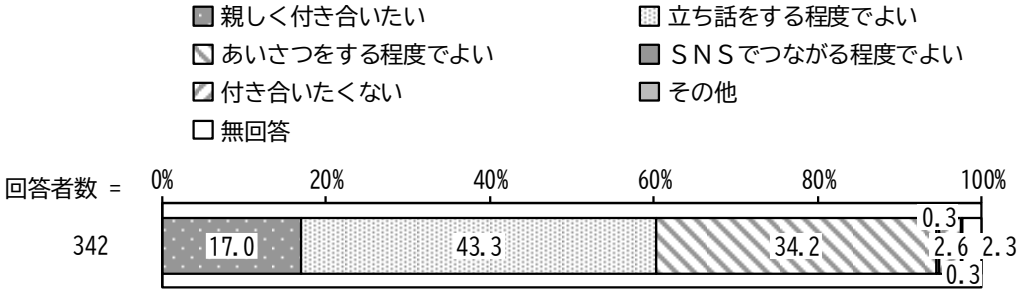
【居住年数別】

居住年数別にみると、29年以下の年数は、いずれも「あいさつをする程度」が過半数を占めています。３～４年、５～９年では「ほとんど付き合っていない」の割合が３割前後と高くなっています。



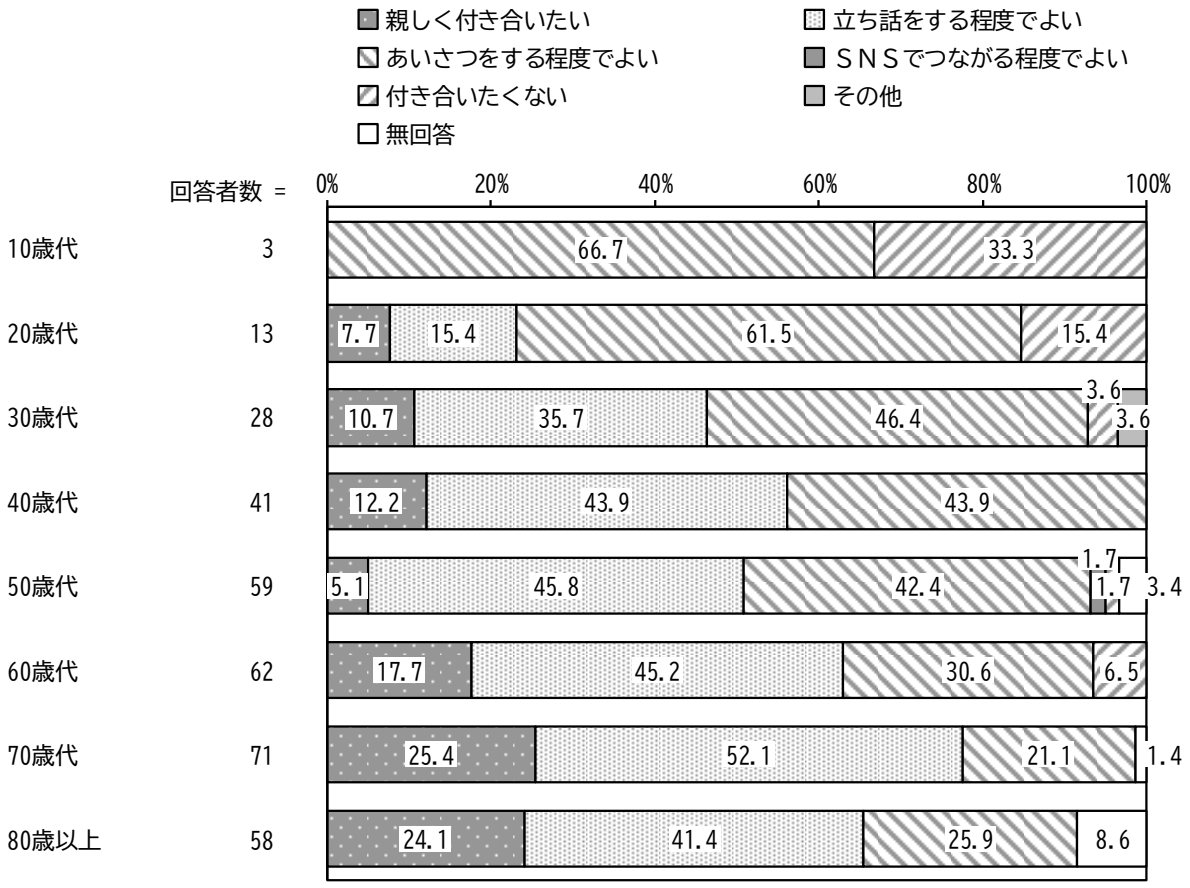
問９　今後、あなたはどの程度、近所付き合いをしたいと思いますか。【１つだけに○】

今後の近所付き合いの程度については、「立ち話をする程度でよい」の割合が43.3%と最も高く、次いで「あいさつをする程度でよい」の割合が34.2%、「親しく付き合いたい」の割合が17.0%となっています。



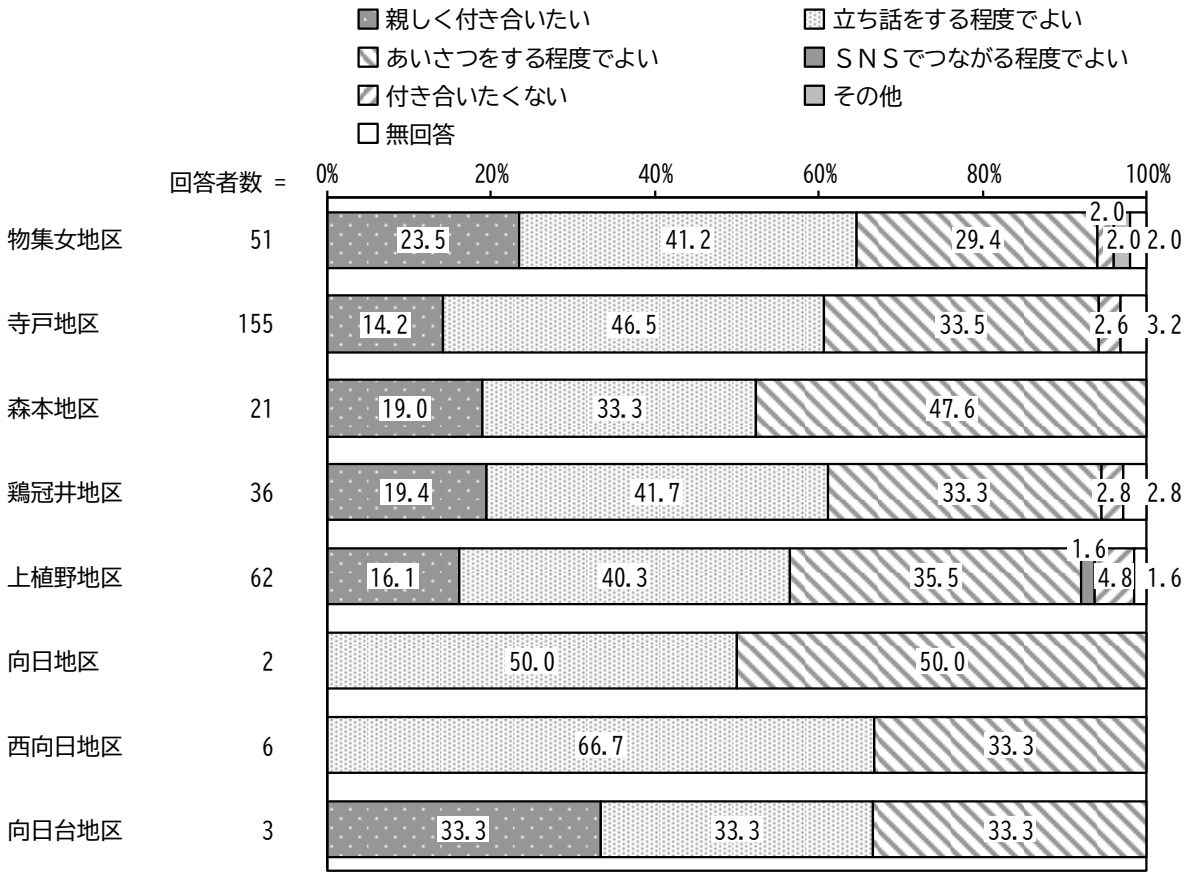
【年齢別】

年齢別にみると、「親しく付き合いたい」の割合は、70歳代以上の年代で２割台と高くなっています。一方で、「あいさつをする程度でよい」や「付き合いたくない」の割合は、若い年代ほど高くなる傾向がみられます。



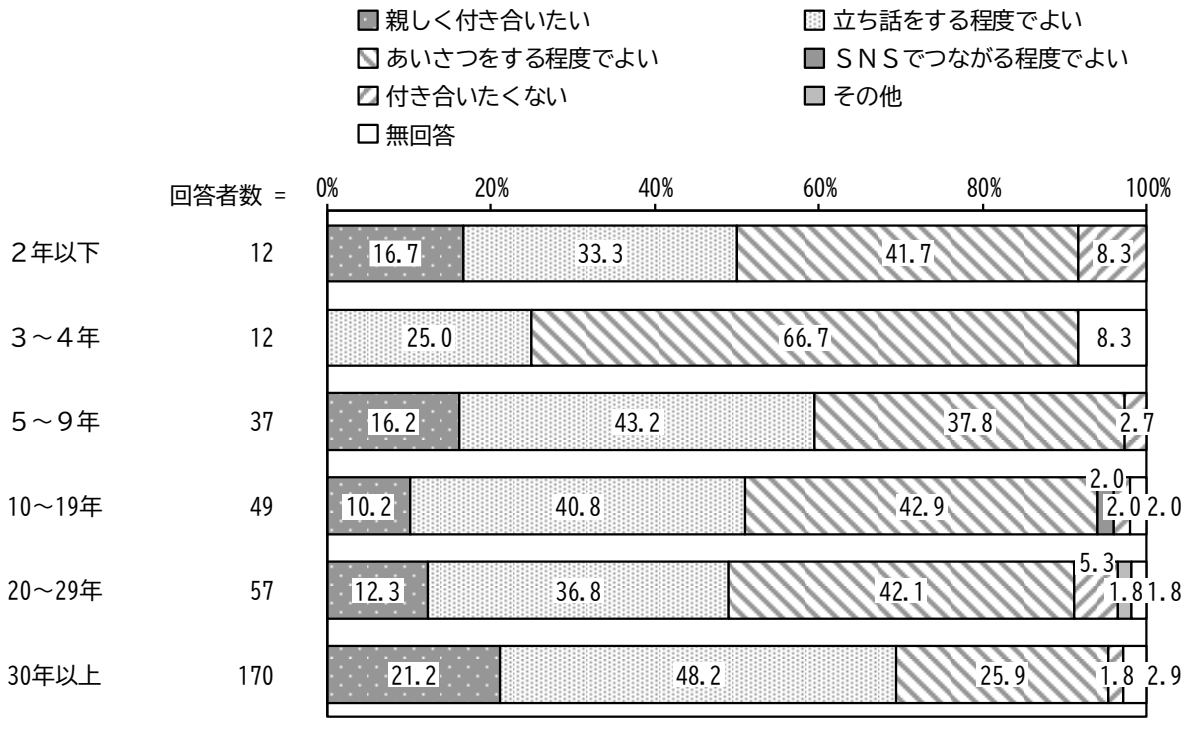
【地区別】

地区別にみると、「親しく付き合いたい」の割合は、物集女地区が23.5%で最も高くなっています。「立ち話をする程度でよい」の割合は、寺戸地区が46.5%で最も高く、次いで鶏冠井地区が41.7%となっています。



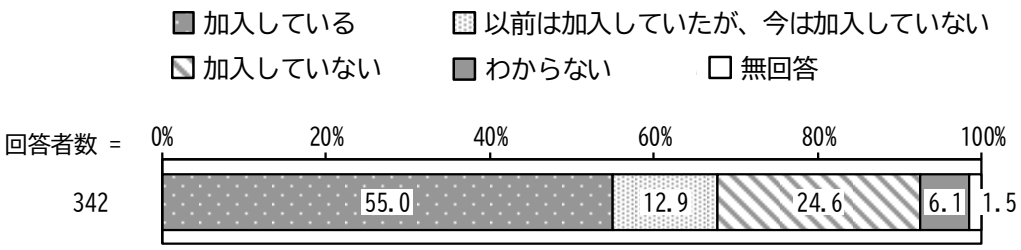
【居住年数別】

居住年数別にみると、「親しく付き合いたい」、「立ち話をする程度でよい」の割合は、30年以上が最も高くなっています。



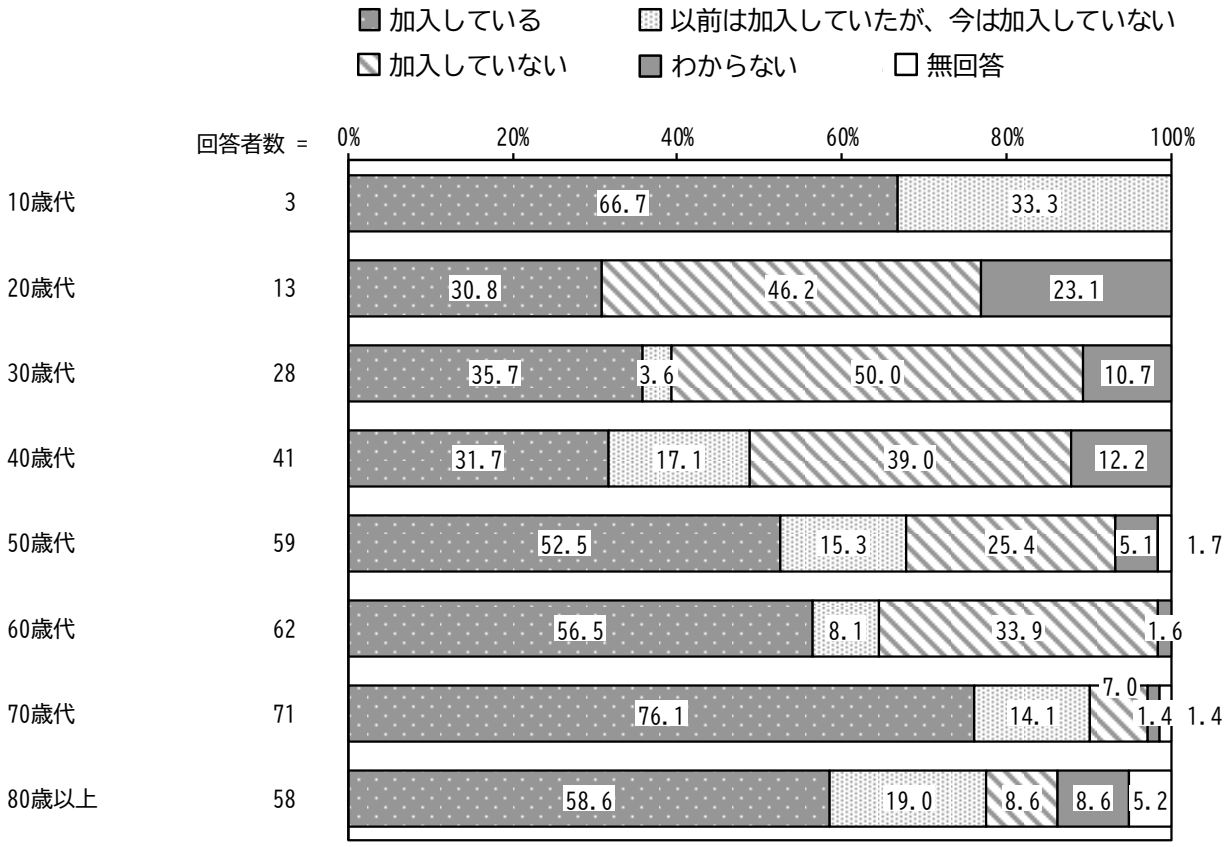
問 10　あなたは町内会・自治会に加入していますか。【１つだけに○】

町内会・自治会の加入状況については、「加入している」の割合が55.0%と最も高く、次いで「加入していない」の割合が24.6%、「以前は加入していたが、今は加入していない」の割合が12.9%となっており、「以前は加入していたが、今は加入していない」と「加入していない」を合わせた“加入していない”の割合は37.5%となっています。



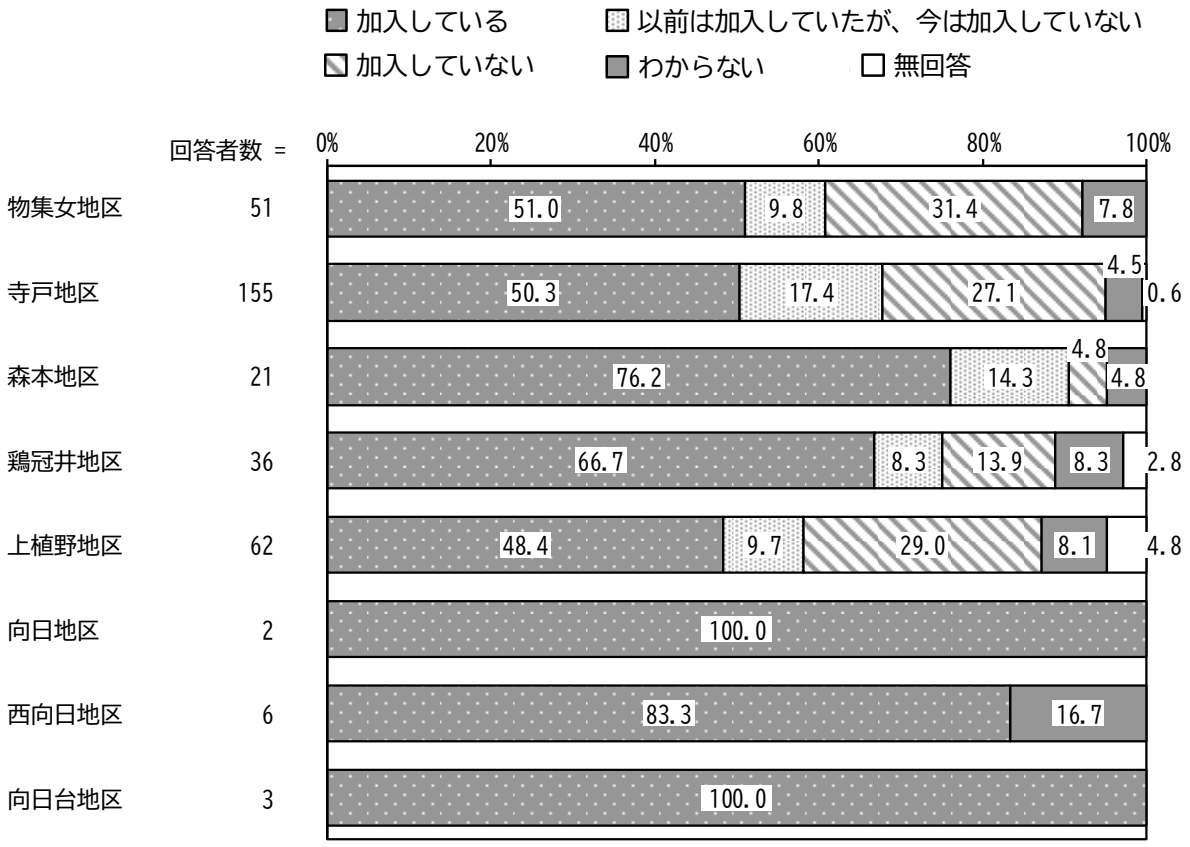
【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以上で「加入している」の割合が５割を超え、特に70歳代が76.1%で最も高くなっています。一方、“加入していない”の割合は、40歳代が56.1%で最も高く、次いで30歳代が53.6%となっています。



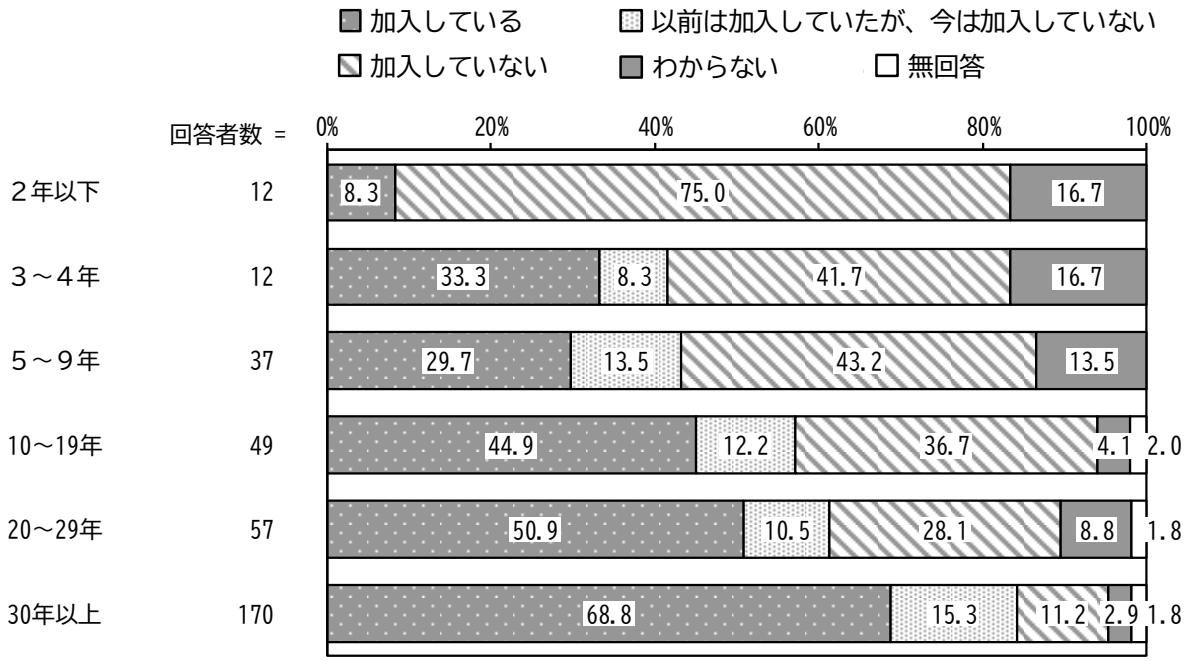
【地区別】

地区別にみると、いずれの地区も「加入している」の割合が最も多く、森本地区では76.2%、鶏冠井地区では66.7%と高い割合となっています。一方、“加入していない”の割合は、寺戸地区が44.5%で最も高く、次いで物集女地区が41.2%となっています。



【居住年数別】

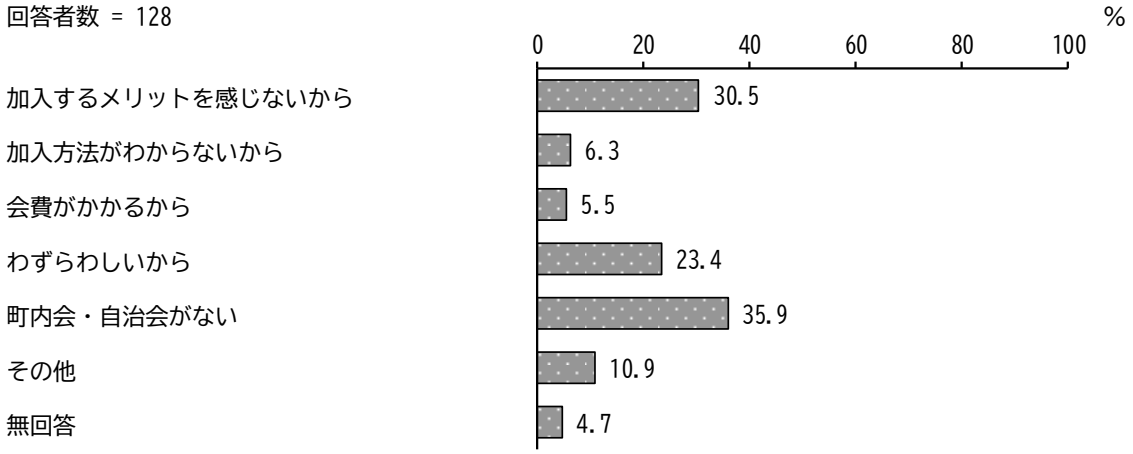
居住年数別にみると、居住年数が長いほど、「加入している」の割合が高くなる傾向がみられ、30年以上が68.8%で最も高くなっています。



問10で「２、３」いずれかの回答をされた方に質問です。

問 11　町内会・自治会に加入していないのはなぜですか。【あてはまるもの全てに○】

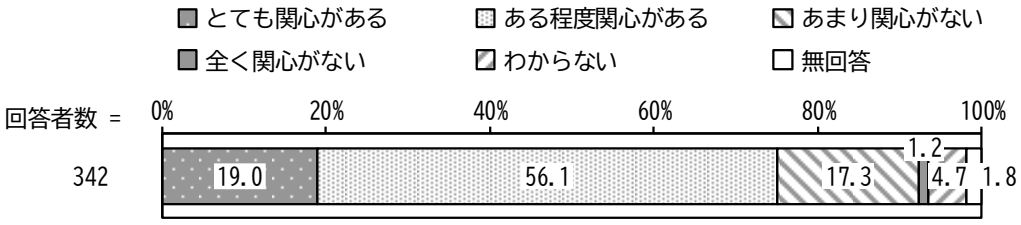
町内会・自治会に加入していないと回答した人に、その理由をたずねると、「町内会・自治会がない」の割合が35.9%と最も高く、次いで「加入するメリットを感じないから」の割合が30.5%、「わずらわしいから」の割合が23.4%となっています。



（３）地域福祉活動について

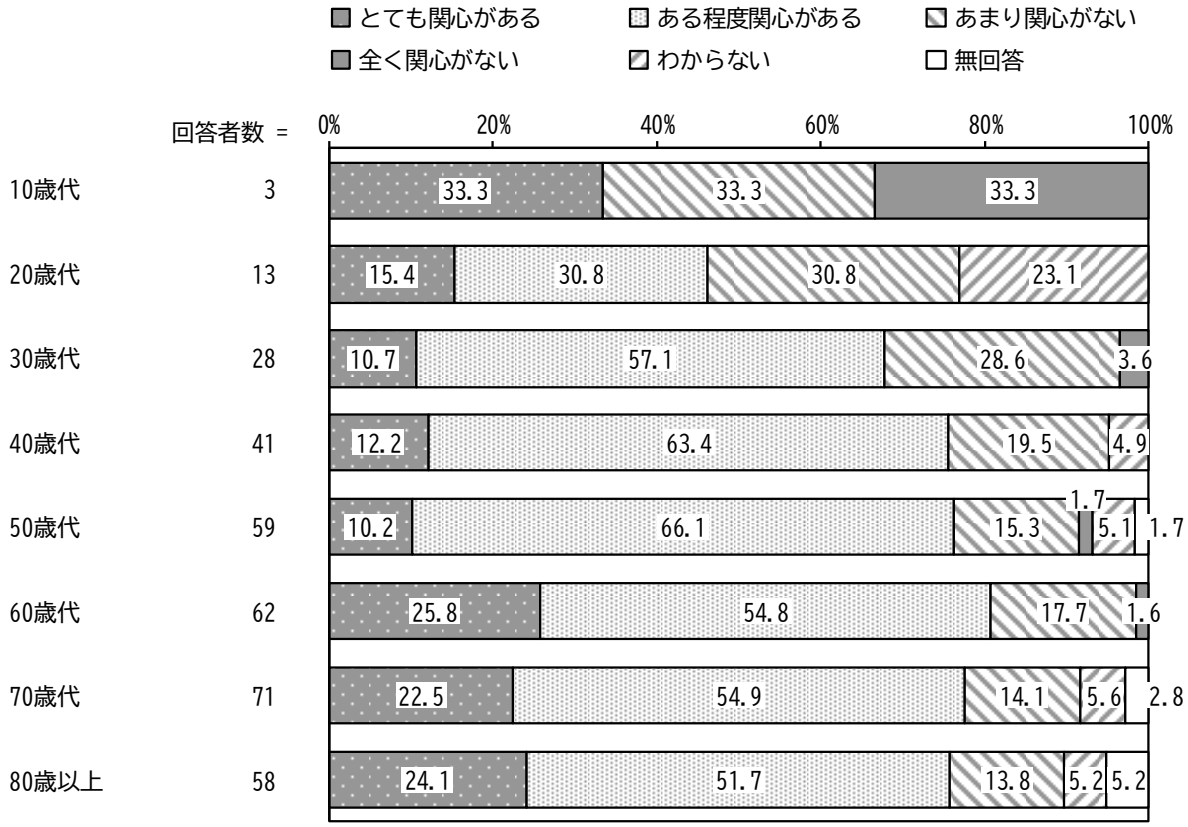
問 12　あなたは、福祉に対して関心がありますか。【１つだけに○】

福祉に対する関心については、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が75.1%、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が18.5%となっています。



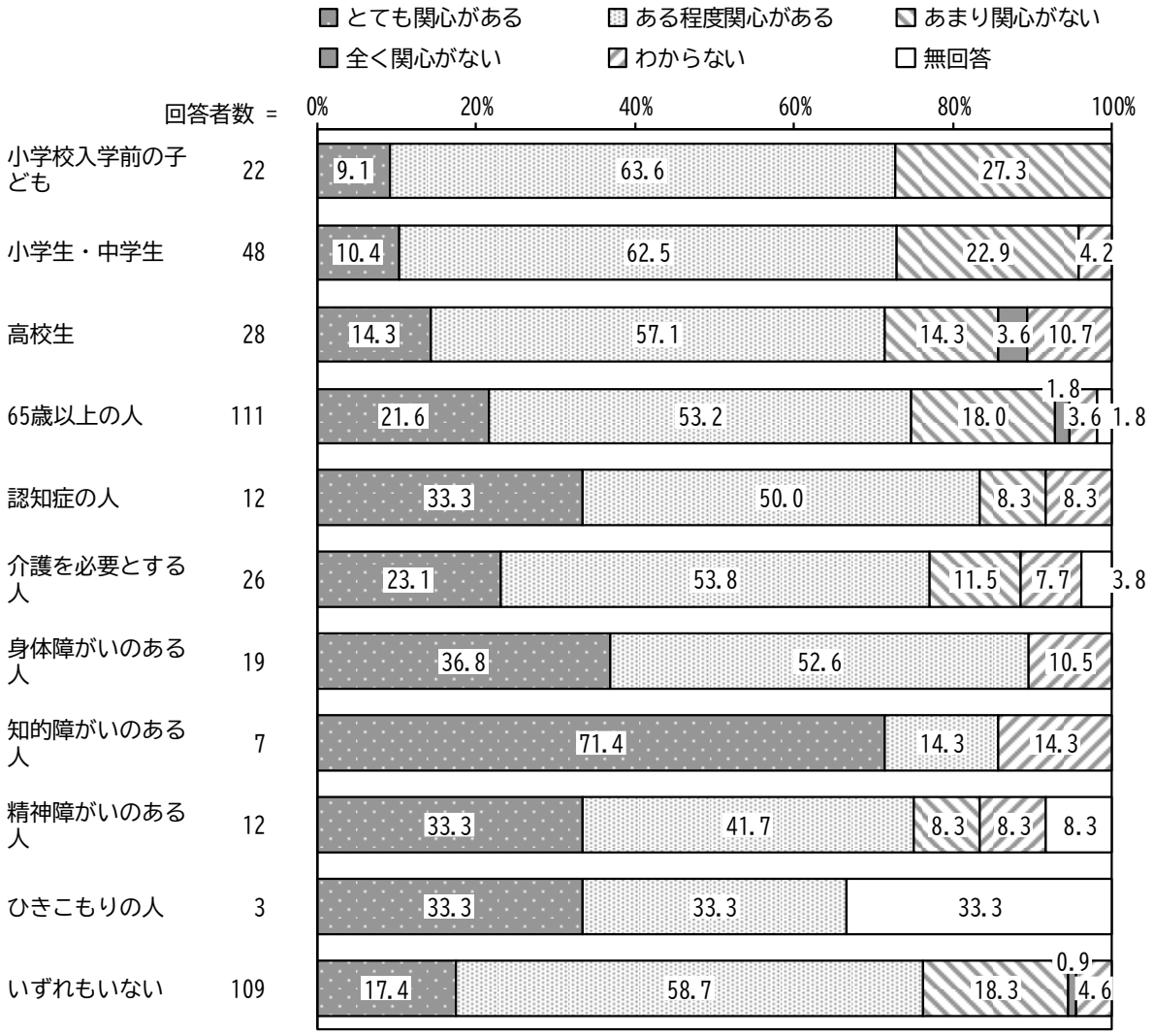
【年齢別】

年齢別にみると、「とても関心がある」の割合は、60歳代以上で２割台と高く、“関心がある”の割合は40歳代以上で７割を超えています。



【同居している家族別】

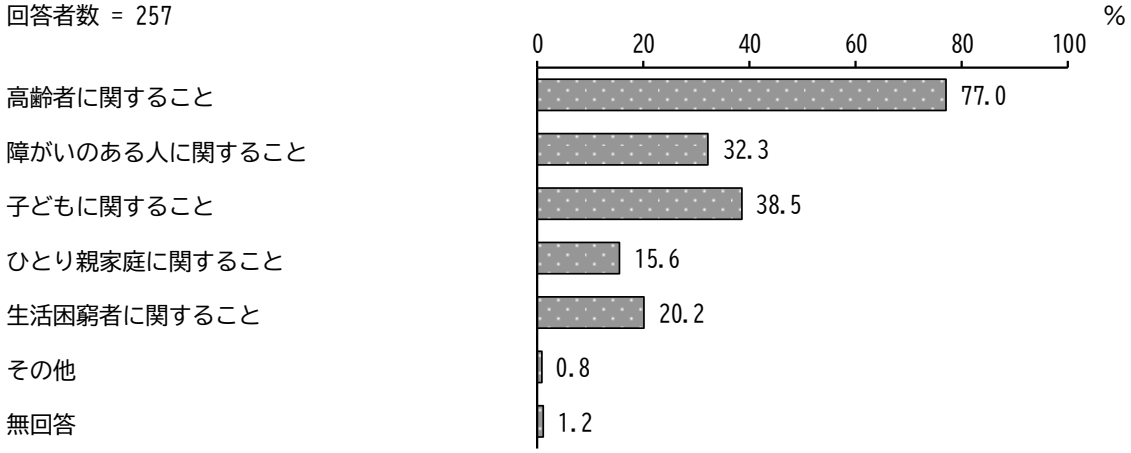
同居している家族別にみると、“関心がある”の割合は、身体障がいのある人が89.4%で最も高くなっています。



問12で「１、２」いずれかの回答をされた人に質問です。

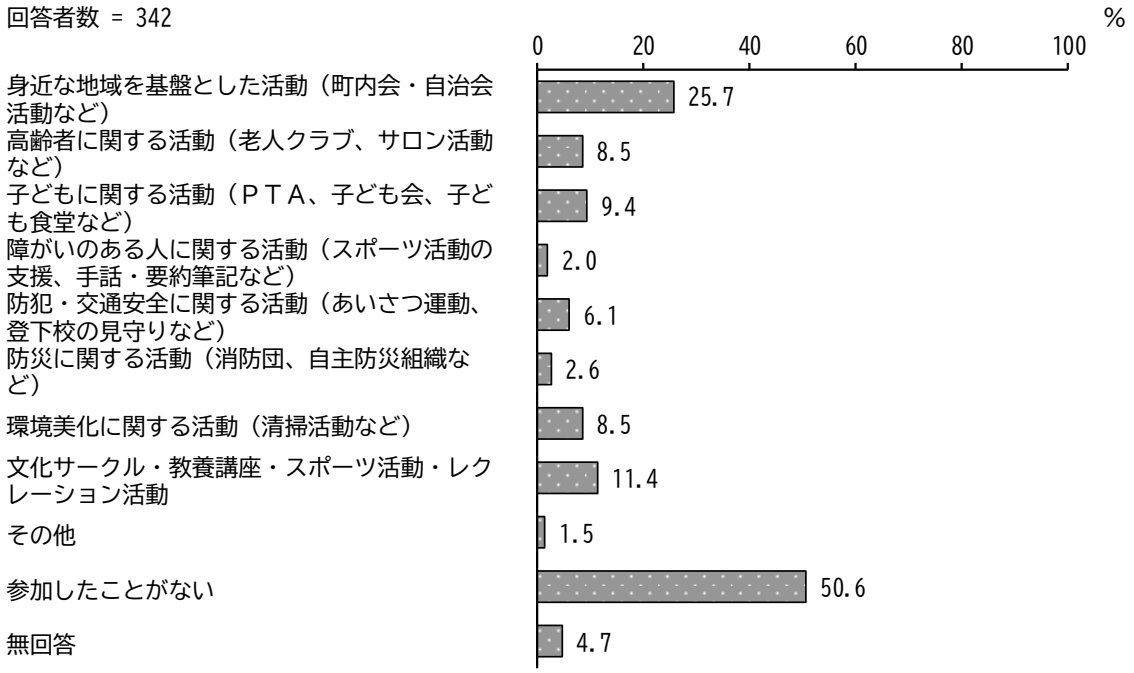
問 13　関心がある福祉はどの分野ですか。【あてはまるもの全てに○】

福祉に対して関心があると回答した人に、関心がある福祉の分野についてたずねると、「高齢者に関すること」の割合が77.0%と最も高く、次いで「子どもに関すること」の割合が38.5%、「障がいのある人に関すること」の割合が32.3%となっています。



問 14　「福祉」の分野に限らず、参加している（過去５年以内に参加したことがある）地域活動はどのようなものですか。【あてはまるもの全てに○】

参加している地域活動については、「参加したことがない」の割合が50.6%と最も高く、次いで「身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）」の割合が25.7%、「文化サークル・教養講座・スポーツ活動・レクレーション活動」の割合が11.4%となっています。



【年齢別】

参加している地域活動について、年齢別にみると、30・50～70歳代では「身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）」の割合が最も高く、40歳代では「子どもに関する活動（ＰＴＡ、子ども会、子ども食堂など）」、80歳以上では「高齢者に関する活動（老人クラブ、サロン活動など）」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）	高齢者に関する活動（老人クラブ、サロン活動など）	子どもに関する活動（ＰＴＡ、子ども会、子ども食堂など）	障がいのある人に関する活動（スポーツ活動の支援、手話・要約筆記など）	防犯・交通安全に関する活動（あいさつ運動、登下校の見守りなど）	防災に関する活動（消防団、自主防災組織など）	環境美化に関する活動（清掃活動など）	文化サークル・教養講座・スポーツ活動・レクレーション活動	その他	参加したことがない	無回答
全　体	342	25.7	8.5	9.4	2.0	6.1	2.6	8.5	11.4	1.5	**50.6**	4.7
10歳代	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	**100.0**	－
20歳代	13	－	－	7.7	－	－	－	－	7.7	－	**84.6**	－
30歳代	28	21.4	－	10.7	－	3.6	7.1	7.1	7.1	3.6	**57.1**	－
40歳代	41	19.5	－	31.7	2.4	17.1	2.4	7.3	7.3	－	**43.9**	－
50歳代	59	25.4	1.7	16.9	－	10.2	1.7	11.9	8.5	－	**55.9**	1.7
60歳代	62	27.4	4.8	1.6	1.6	4.8	3.2	11.3	12.9	3.2	**58.1**	3.2
70歳代	71	38.0	12.7	2.8	2.8	2.8	4.2	9.9	11.3	2.8	**45.1**	2.8
80歳以上	58	22.4	25.9	1.7	3.4	3.4	－	5.2	20.7	－	**39.7**	15.5

【地区別】

参加している地域活動について、地区別にみると、いずれの地区も「身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）」の割合が最も高く、２割台となっています。

また、「高齢者に関する活動（老人クラブ、サロン活動など）」の割合は、鶏冠井地区が13.9%で最も高く、「子どもに関する活動（ＰＴＡ、子ども会、子ども食堂など）」の割合は、上植野地区が16.1%で最も高くなっています。

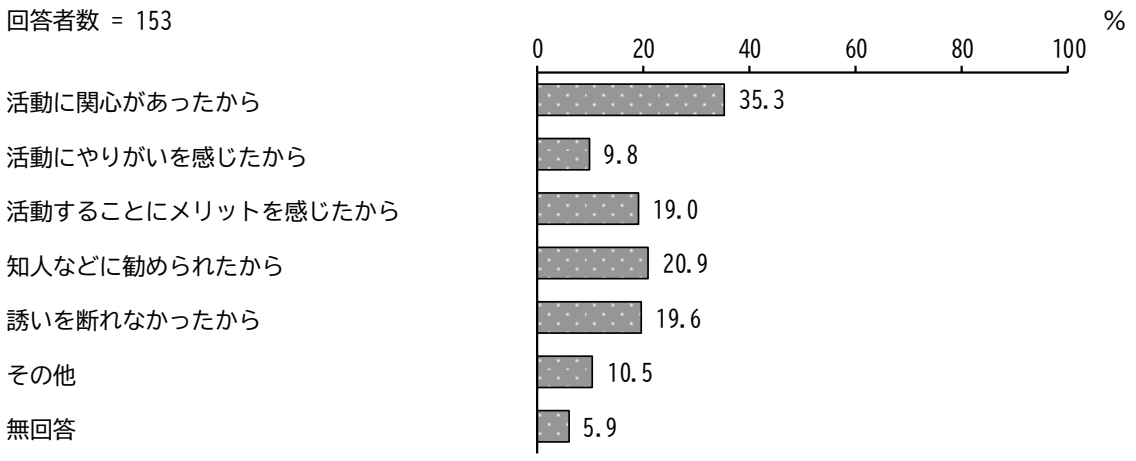
単位：%

区分	回答者数（件）	身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）	高齢者に関する活動（老人クラブ、サロン活動など）	子どもに関する活動（ＰＴＡ、子ども会、子ども食堂など）	障がいのある人に関する活動（スポーツ活動の支援、手話・要約筆記など）	防犯・交通安全に関する活動（あいさつ運動、登下校の見守りなど）	防災に関する活動（消防団、自主防災組織など）	環境美化に関する活動（清掃活動など）	文化サークル・教養講座・スポーツ活動・レクレーション活動	その他	参加したことがない	無回答
全　体	342	25.7	8.5	9.4	2.0	6.1	2.6	8.5	11.4	1.5	**50.6**	4.7
物集女地区	51	25.5	9.8	13.7	－	7.8	3.9	3.9	7.8	－	**45.1**	3.9
寺戸地区	155	25.2	6.5	7.1	1.9	5.8	3.2	7.1	12.9	1.3	**53.5**	5.2
森本地区	21	23.8	9.5	－	－	9.5	－	4.8	4.8	－	**47.6**	14.3
鶏冠井地区	36	27.8	13.9	8.3	5.6	－	2.8	13.9	13.9	5.6	**44.4**	－
上植野地区	62	25.8	8.1	16.1	－	6.5	1.6	11.3	11.3	1.6	**53.2**	1.6
向日地区	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	**100.0**	－
西向日地区	6	16.7	－	－	－	－	－	－	－	－	**83.3**	－
向日台地区	3	**100.0**	33.3	－	33.3	66.7	－	**100.0**	66.7	－	－	－

問14で「１～９」のいずれかの回答をされた方に質問です。

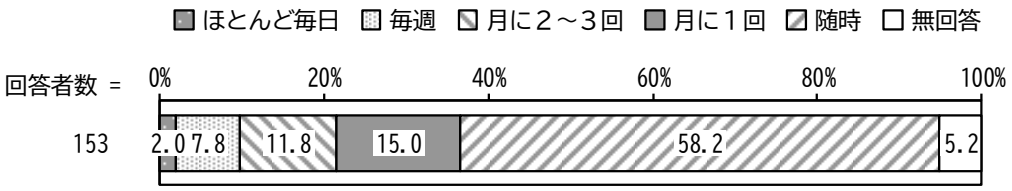
問 15　地域活動に参加している（したことがある）理由は何ですか。
【あてはまるもの全てに○】

何らかの地域活動に参加していると回答した人に、参加している理由をたずねると、「活動に関心があったから」の割合が35.3%と最も高く、次いで「知人などに勧められたから」の割合が20.9%、「誘いを断れなかったから」の割合が19.6%となっています。



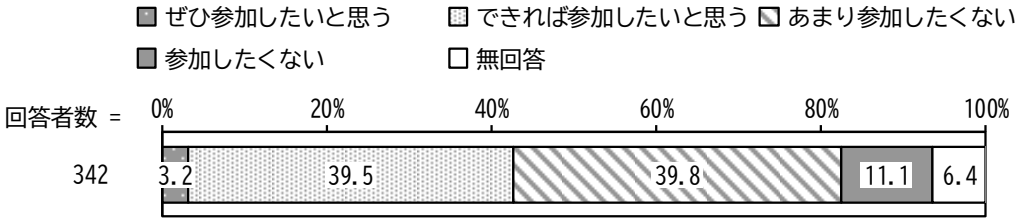
問16　地域活動に参加している（したことがある）頻度はどの程度ですか。【１つだけに○】

地域活動の参加頻度については、「随時」の割合が58.2%と最も高く、次いで「月に１回」の割合が15.0%、「月に２～３回」の割合が11.8%となっています。



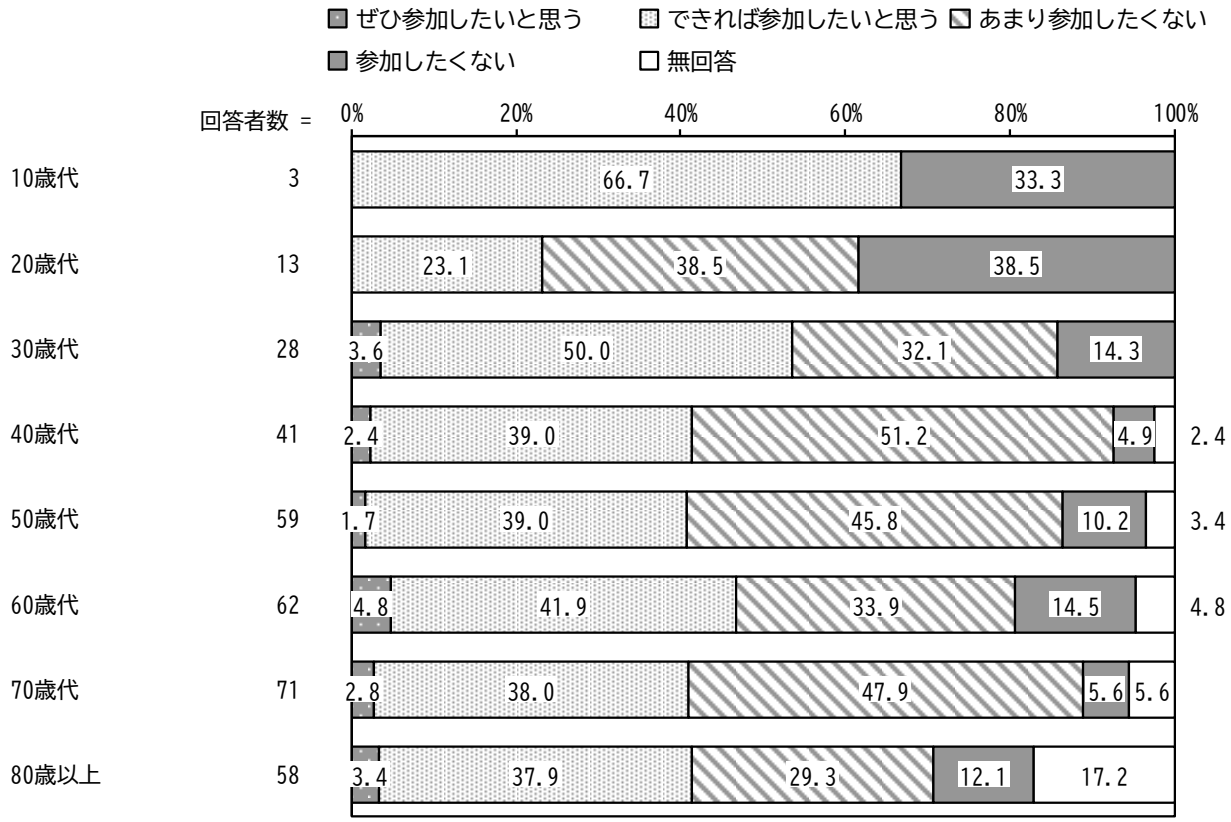
問17　今後、地域活動に参加したいと思いますか。【１つだけに○】

今後の地域活動への参加意向については、「ぜひ参加したいと思う」と「できれば参加したいと思う」を合わせた“参加したい”の割合が42.7%、「あまり参加したくない」と「参加したくない」を合わせた“参加したくない”の割合が50.9%となっています。



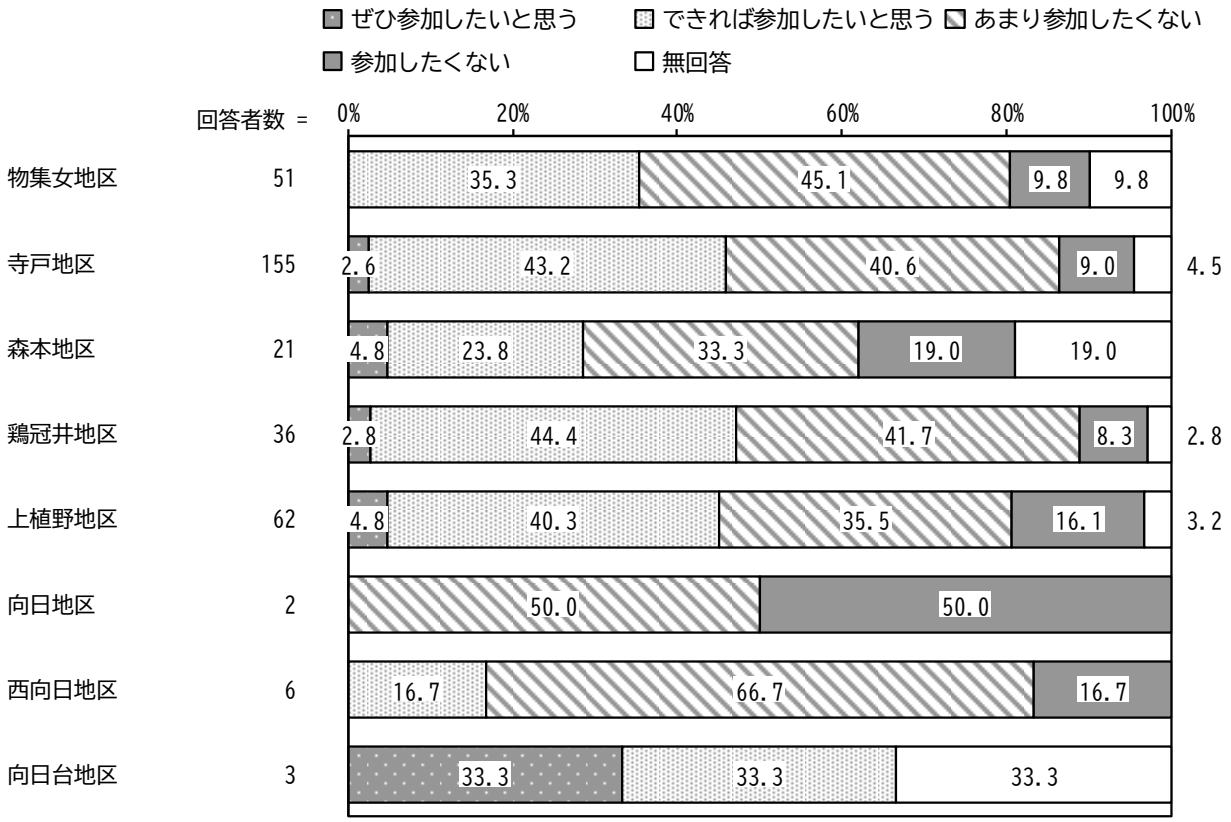
【年齢別】

年齢別にみると、“参加したい”の割合は、30歳代が53.6%で最も高く、次いで60歳代が46.7%となっています。



【地区別】

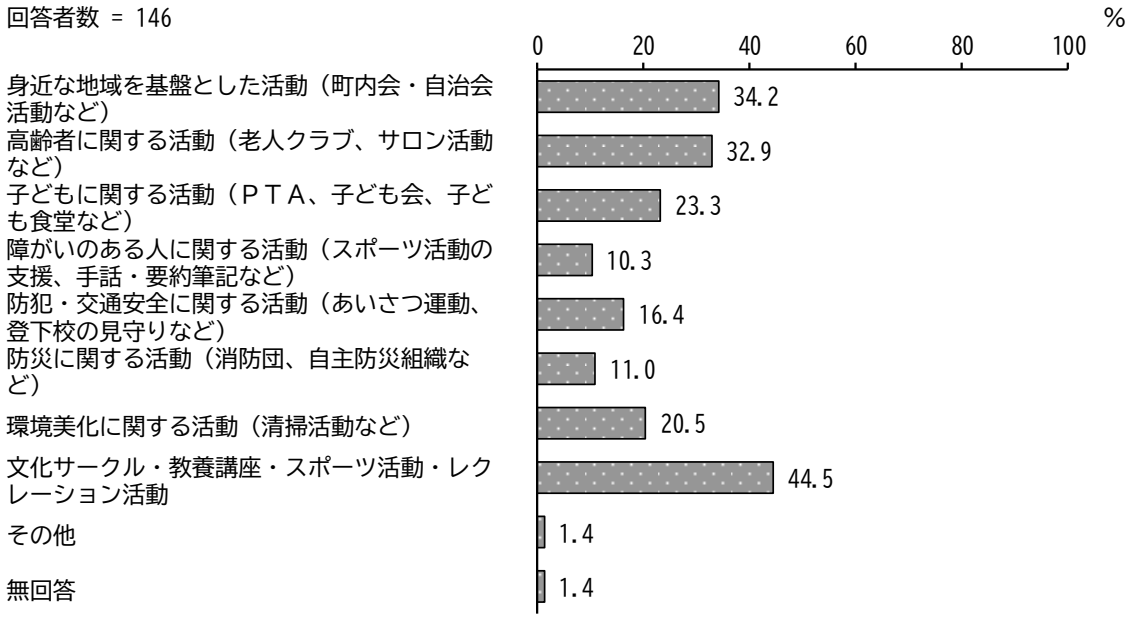
地区別にみると、“参加したい”の割合は、寺戸地区、鶏冠井地区、上植野地区では４割を超えており、他の地区と比べ、高くなっています。一方、“参加したくない”の割合は、物集女地区が54.9%で最も高くなっています。



問17で「１、２」のいずれかの回答をされた方に質問です。

問 18　参加したい地域活動の内容はどのようなものですか。【あてはまるもの全てに○】

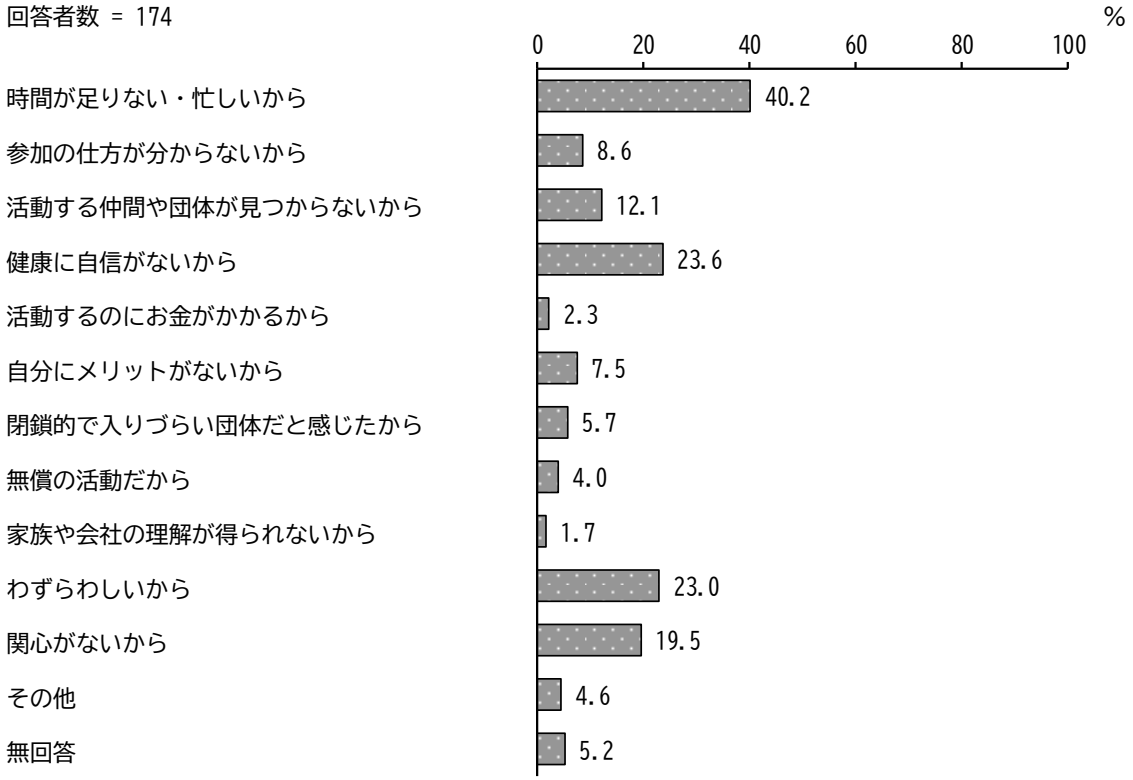
今後、地域活動に参加したいと回答した人に、参加したい活動内容についてたずねると、「文化サークル・教養講座・スポーツ活動・レクレーション活動」の割合が44.5%と最も高く、次いで「身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）」の割合が34.2%、「高齢者に関する活動（老人クラブ、サロン活動など）」の割合が32.9%となっています。



問17で「３、４」のいずれかの回答をされた方に質問です。

問 19　参加したくない理由は何ですか。【あてはまるもの全てに○】

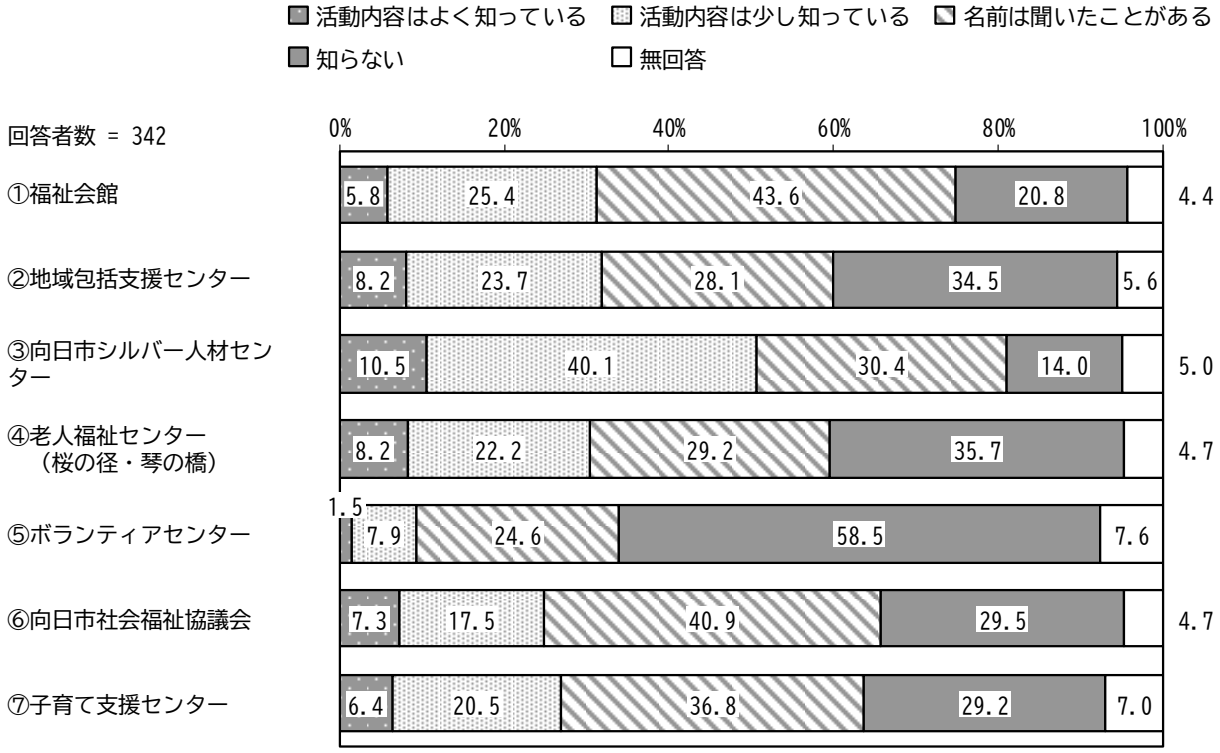
今後、地域活動に参加したくないと回答した人に、その理由をたずねると、「時間が足りない・忙しいから」の割合が40.2%と最も高く、次いで「健康に自信がないから」の割合が23.6%、「わずらわしいから」の割合が23.0%となっています。



（４）地域福祉活動の拠点や情報源について

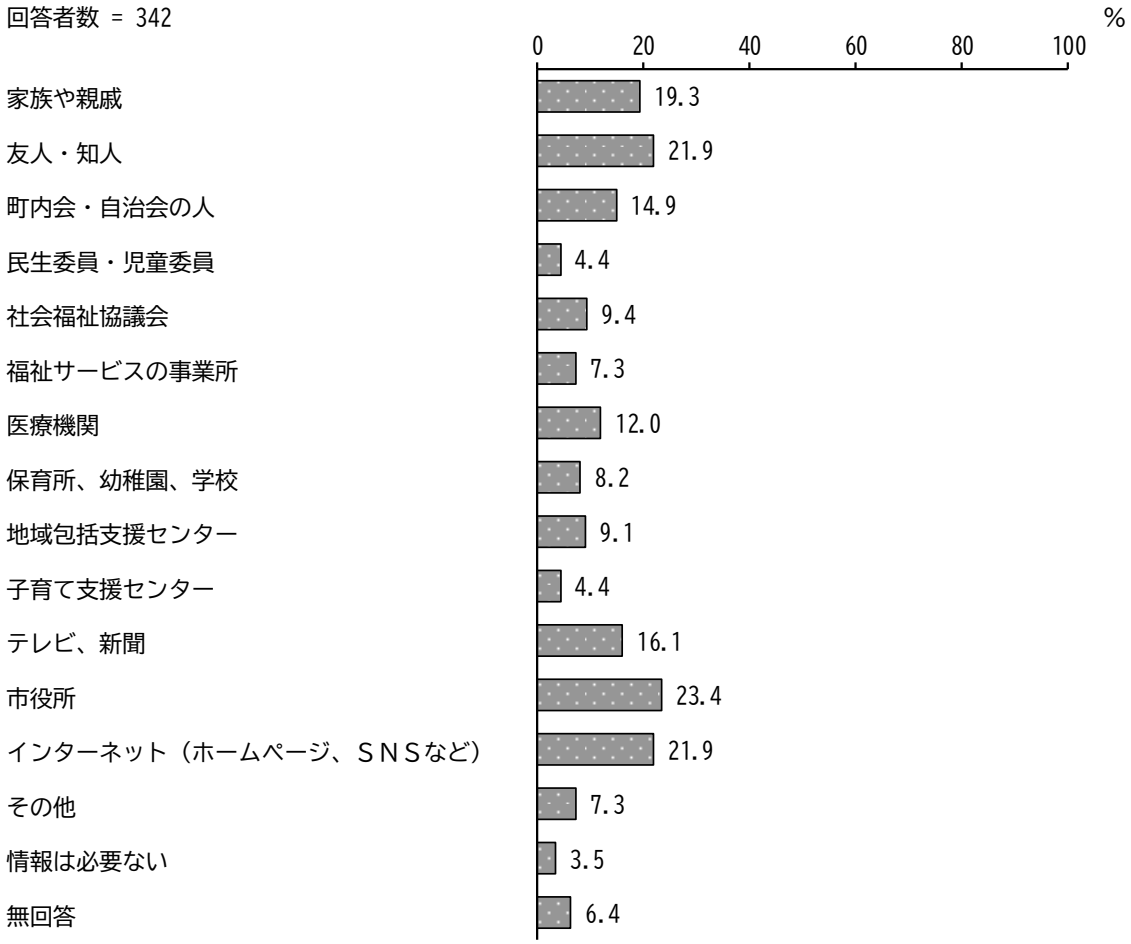
問 20　あなたは、次のような地域福祉活動の拠点や組織を知っていますか。
【それぞれ１つずつ○】

地域福祉活動の拠点や組織の認知度についてたずねたところ、「活動内容はよく知っている」の割合は、『③向日市シルバー人材センター』が10.5%で最も高くなっています。「活動内容はよく知っている」と「活動内容は少し知っている」、「名前は聞いたことがある」を合わせた認知度は、『③向日市シルバー人材センター』が81.0%で最も高く、次いで『①福祉会館』が74.8%、『⑥向日市社会福祉協議会』が65.7%となっています。一方、「知らない」の割合は、『⑤ボランティアセンター』が58.5%で最も高く、次いで『④老人福祉センター（桜の径・琴の橋)』が35.7%となっています。



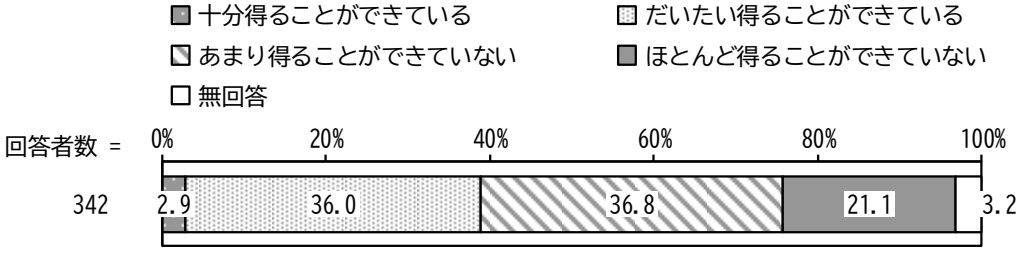
問 21　あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから得ていますか。
【あてはまるもの全てに○】

福祉サービスに関する情報源については、「市役所」の割合が23.4%と最も高く、次いで「友人・知人」と「インターネット（ホームページ、ＳＮＳなど)」の割合が21.9%となっています。



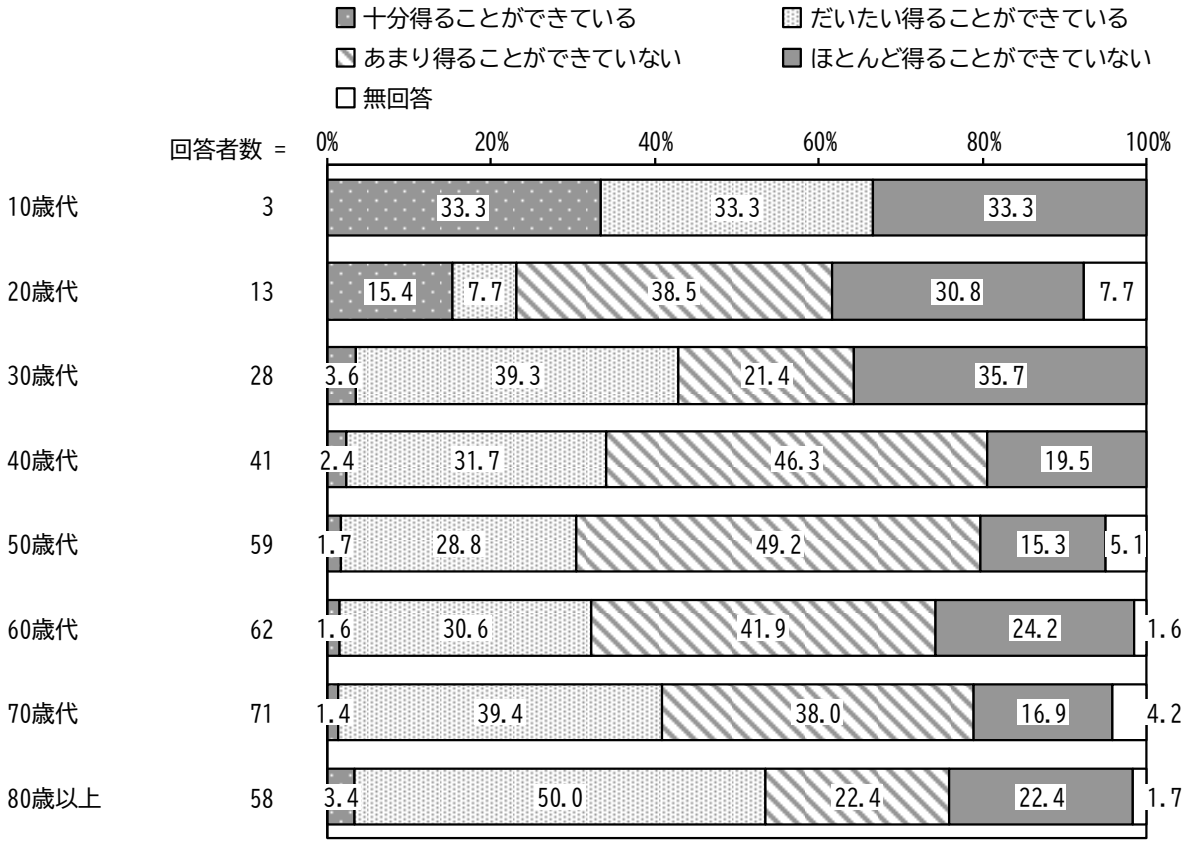
問 22　あなたは福祉サービスに関する情報を得ることができていると思いますか。
【１つだけに○】

福祉サービスに関する情報を得ることができているかについては、「十分得ることができている」と「だいたい得ることができている」を合わせた“得ることができている”の割合が38.9%、「あまり得ることができていない」と「ほとんど得ることができていない」を合わせた“得ることができていない”の割合が57.9%となっています。



【年齢別】

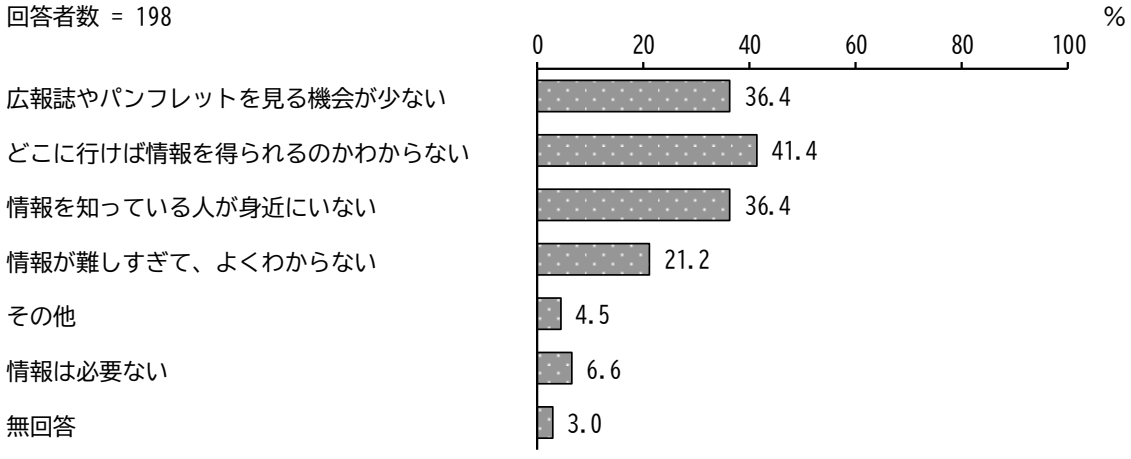
年齢別にみると、“得ることができている”の割合は、80歳以上が53.4%で最も高く、次いで30歳代が42.9%となっています。一方で、“得ることができていない”の割合は、20歳代が69.3%で最も高く、次いで60歳代が66.1%となっています。



問22で「３、４」のいずれかの回答をされた方に質問です。

問 23　福祉サービスに関する情報を得ることができていないのはなぜですか。
【あてはまるもの全てに○】

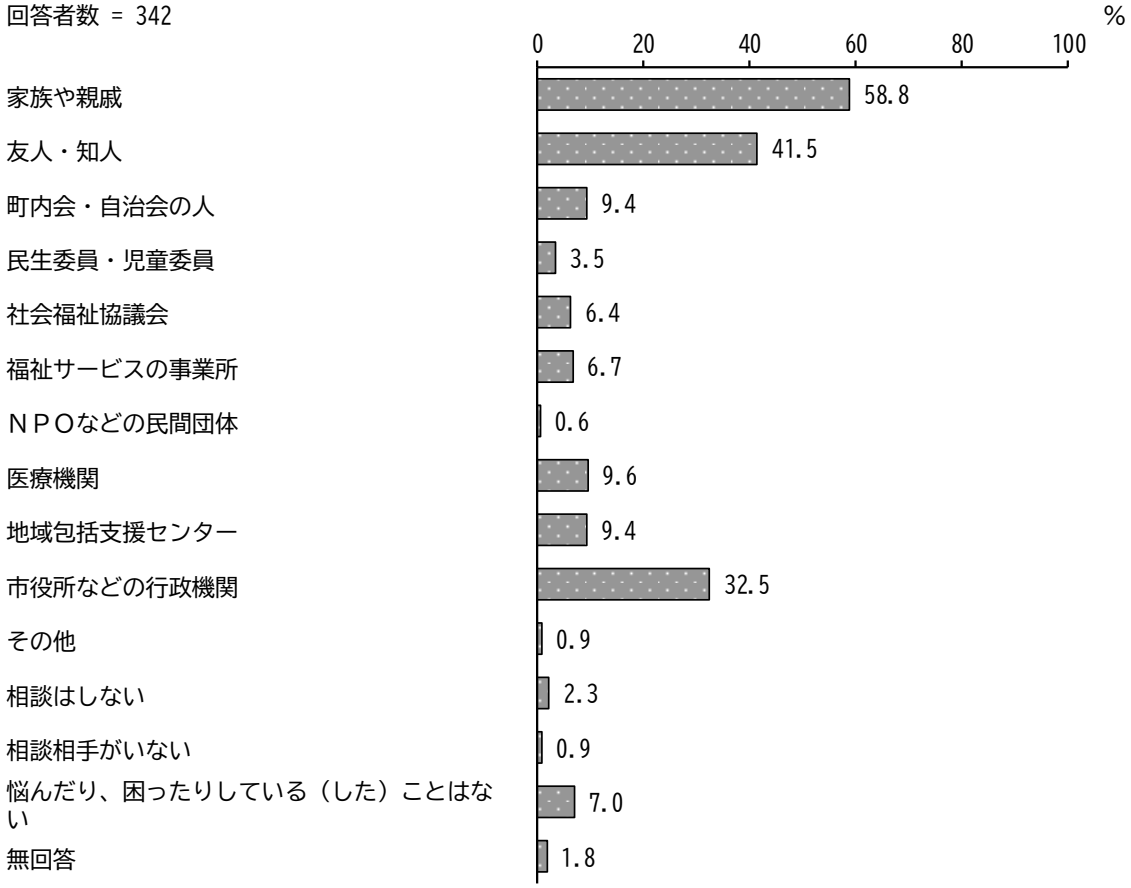
福祉サービスに関する情報を得ることができていないと回答した人に、その理由をたずねると、「どこに行けば情報を得られるのかわからない」の割合が41.4%と最も高く、次いで「広報誌やパンフレットを見る機会が少ない」、「情報を知っている人が身近にいない」の割合が36.4%となっています。



（5）地域での支え合いについて

問 24　地域生活の中で悩んだり、困ったりしたときは、どこに相談しますか、あるいは、どこに相談しましたか。【あてはまるもの全てに○】

悩んだり、困ったときの相談先については、「家族や親戚」の割合が58.8%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が41.5%、「市役所などの行政機関」の割合が32.5%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年代も「家族や親戚」が最も多く、次いで「友人・知人」となっています。

また、「市役所などの行政機関」の割合は、50歳代以上で３割台と高く、70歳代が38.0%で最も高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	家族や親戚	友人・知人	町内会・自治会の人	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	福祉サービスの事業所	NPOなどの民間団体
全　体	342	**58.8**	41.5	9.4	3.5	6.4	6.7	0.6
10歳代	3	**100.0**	33.3	－	－	－	－	－
20歳代	13	**61.5**	38.5	－	7.7	7.7	－	7.7
30歳代	28	**78.6**	53.6	7.1	－	－	－	－
40歳代	41	**63.4**	41.5	2.4	－	4.9	7.3	－
50歳代	59	**61.0**	49.2	8.5	1.7	5.1	8.5	1.7
60歳代	62	**53.2**	38.7	17.7	－	9.7	9.7	－
70歳代	71	**49.3**	39.4	7.0	7.0	4.2	5.6	－
80歳以上	58	**58.6**	36.2	13.8	8.6	12.1	8.6	－

区分	医療機関	地域包括支援センター	市役所などの行政機関	その他	相談はしない	相談相手がいない	悩んだり、困ったりしている（した）ことはない	無回答
全　体	9.6	9.4	32.5	0.9	2.3	0.9	7.0	1.8
10歳代	－	－	－	－	－	－	－	－
20歳代	－	7.7	23.1	－	7.7	－	7.7	－
30歳代	3.6	－	28.6	3.6	7.1	－	3.6	－
40歳代	2.4	2.4	24.4	－	2.4	－	12.2	－
50歳代	10.2	8.5	37.3	－	－	3.4	5.1	3.4
60歳代	14.5	3.2	32.3	1.6	1.6	1.6	8.1	1.6
70歳代	8.5	15.5	38.0	－	2.8	－	9.9	2.8
80歳以上	13.8	19.0	32.8	1.7	1.7	－	3.4	－

【世帯構成別】

世帯構成別にみると、いずれの世帯も「家族や親戚」が最も多くなっています。

また、「地域包括支援センター」の割合は、ひとり暮らしの世帯が19.0%で最も高く、「市役所などの行政機関」の割合は、夫婦のみの世帯が35.1%で最も高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	家族や親戚	友人・知人	町内会・自治会の人	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	福祉サービスの事業所	NPOなどの民間団体
全　体	342	**58.8**	41.5	9.4	3.5	6.4	6.7	0.6
ひとり暮らしの世帯	58	**37.9**	31.0	－	8.6	10.3	8.6	－
夫婦のみの世帯	97	**58.8**	37.1	17.5	2.1	9.3	6.2	－
親・子の２世代世帯	157	**66.9**	45.9	8.3	1.3	2.5	5.1	1.3
親・子・孫の３世代世帯	12	**66.7**	**66.7**	－	16.7	8.3	8.3	－
その他	7	**71.4**	**71.4**	28.6	－	14.3	14.3	－

区分	医療機関	地域包括支援センター	市役所などの行政機関	その他	相談はしない	相談相手がいない	悩んだり、困ったりしている（した）ことはない	無回答
全　体	9.6	9.4	32.5	0.9	2.3	0.9	7.0	1.8
ひとり暮らしの世帯	5.2	19.0	31.0	1.7	6.9	1.7	5.2	1.7
夫婦のみの世帯	8.2	12.4	35.1	－	－	1.0	14.4	－
親・子の２世代世帯	8.9	2.5	31.8	1.3	2.5	0.6	2.5	2.5
親・子・孫の３世代世帯	16.7	8.3	33.3	－	－	－	16.7	－
その他	14.3	－	28.6	－	－	－	14.3	－

【同居している家族別】

同居している家族別にみると、「地域包括支援センター」の割合は、認知症の人が33.3%で最も高く、「市役所などの行政機関」の割合は、小学校入学前の子どもが45.5%で最も高く、次いで65歳以上の人が40.5%となっています。

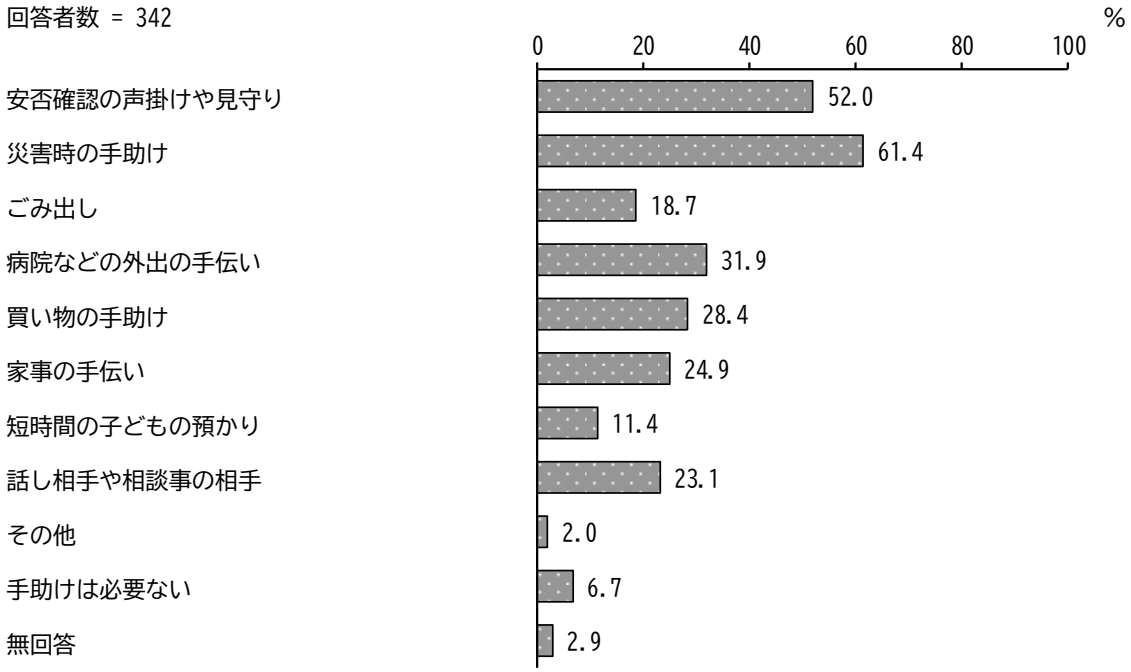
単位：%

区分	回答者数（件）	家族や親戚	友人・知人	町内会・自治会の人	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	福祉サービスの事業所	NPOなどの民間団体
全　体	342	**58.8**	41.5	9.4	3.5	6.4	6.7	0.6
小学校入学前の子ども	22	**77.3**	59.1	4.5	－	－	－	－
小学生・中学生	48	**70.8**	45.8	6.3	－	－	2.1	－
高校生	28	**57.1**	50.0	3.6	3.6	3.6	－	－
65歳以上の人	111	**59.5**	42.3	16.2	4.5	8.1	9.0	－
認知症の人	12	**66.7**	33.3	－	8.3	8.3	25.0	－
介護を必要とする人	26	**65.4**	26.9	7.7	3.8	3.8	19.2	－
身体障がいのある人	19	**57.9**	31.6	5.3	－	10.5	26.3	－
知的障がいのある人	7	57.1	－	－	－	42.9	**85.7**	14.3
精神障がいのある人	12	**50.0**	41.7	－	8.3	8.3	25.0	8.3
ひきこもりの人	3	**33.3**	33.3	－	－	－	－	－
いずれもいない	109	**54.1**	38.5	9.2	4.6	9.2	4.6	0.9

区分	医療機関	地域包括支援センター	市役所などの行政機関	その他	相談はしない	相談相手がいない	悩んだり、困ったりしている（した）ことはない	無回答
全　体	9.6	9.4	32.5	0.9	2.3	0.9	7.0	1.8
小学校入学前の子ども	4.5	－	45.5	4.5	－	－	4.5	－
小学生・中学生	6.3	2.1	22.9	－	2.1	－	6.3	－
高校生	3.6	3.6	35.7	－	－	－	7.1	3.6
65歳以上の人	16.2	13.5	40.5	1.8	0.9	0.9	9.0	2.7
認知症の人	16.7	33.3	16.7	8.3	－	8.3	8.3	－
介護を必要とする人	23.1	23.1	34.6	3.8	－	3.8	3.8	－
身体障がいのある人	15.8	15.8	36.8	－	5.3	－	－	－
知的障がいのある人	14.3	－	28.6	－	－	－	－	－
精神障がいのある人	25.0	－	33.3	－	－	－	－	8.3
ひきこもりの人	33.3	－	33.3	－	－	－	－	－
いずれもいない	4.6	8.3	27.5	－	3.7	1.8	8.3	－

問 25　あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活において手助けが必要になったとき、地域でどのような手助けをしてほしいと思いますか（公的なサービスを除く。）。【あてはまるもの全てに○】

日常生活において手助けしてもらいたいことについては、「災害時の手助け」の割合が61.4%と最も高く、次いで「安否確認の声掛けや見守り」の割合が52.0%、「病院などの外出の手伝い」の割合が31.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、20・50歳代は「安否確認の声掛けや見守り」が最も多いですが、それ以外の年代では「災害時の手助け」が最も多くなっています。

また、「短時間の子どもの預かり」では30歳代が50.0%で最も高く、「話し相手や相談事の相手」の割合は、40歳代が39.0%で最も高くなっています。

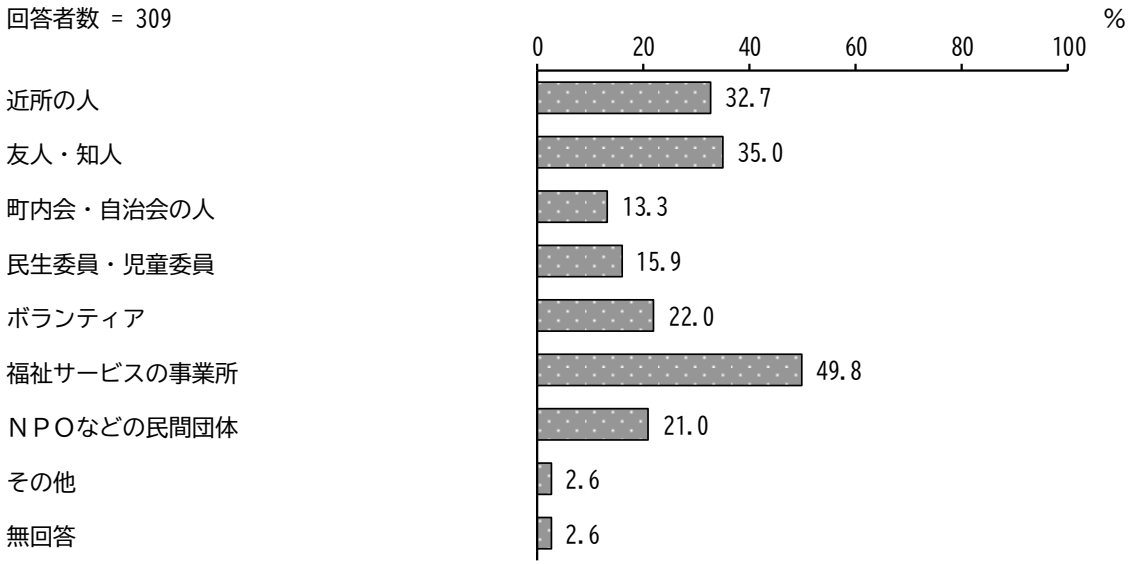
単位：%

区分	回答者数（件）	安否確認の声掛けや見守り	災害時の手助け	ごみ出し	病院などの外出の手伝い	買い物の手助け	家事の手伝い	短時間の子どもの預かり	話し相手や相談事の相手	その他	手助けは必要ない	無回答
全　体	342	52.0	**61.4**	18.7	31.9	28.4	24.9	11.4	23.1	2.0	6.7	2.9
10歳代	3	**66.7**	－	－	33.3	33.3	33.3	－	－	－	－	－
20歳代	13	**84.6**	69.2	23.1	30.8	23.1	23.1	7.7	30.8	－	7.7	－
30歳代	28	53.6	**60.7**	21.4	17.9	21.4	25.0	50.0	21.4	7.1	7.1	－
40歳代	41	58.5	**68.3**	22.0	39.0	22.0	31.7	24.4	39.0	－	2.4	－
50歳代	59	**62.7**	59.3	22.0	39.0	32.2	32.2	13.6	30.5	3.4	3.4	1.7
60歳代	62	58.1	**72.6**	22.6	35.5	33.9	25.8	8.1	24.2	3.2	4.8	1.6
70歳代	71	35.2	**53.5**	14.1	32.4	29.6	22.5	－	5.6	－	12.7	5.6
80歳以上	58	43.1	**60.3**	13.8	22.4	29.3	17.2	－	22.4	1.7	5.2	5.2

問25で「１～９」のいずれかの回答をされた方に質問です。

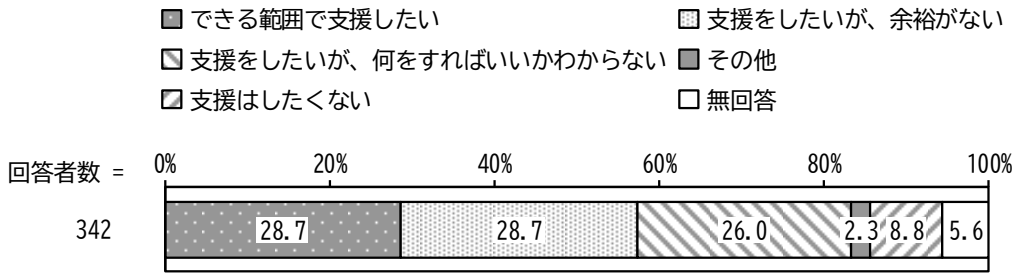
問 26　これらの地域の手助けを誰にしてほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

手助けが必要になったとき、地域で何らかの手助けをしてほしいと回答した人に、手助けをしてほしい人についてたずねると、「福祉サービスの事業所」の割合が49.8%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が35.0%、「近所の人」の割合が32.7%となっています。



問 27　ご近所に、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人など、支援を必要としている人がいる場合、そうした方への支援（日常生活上のお手伝いなど）についてあなたの考えに最も近いものを選んでください。【１つだけに○】

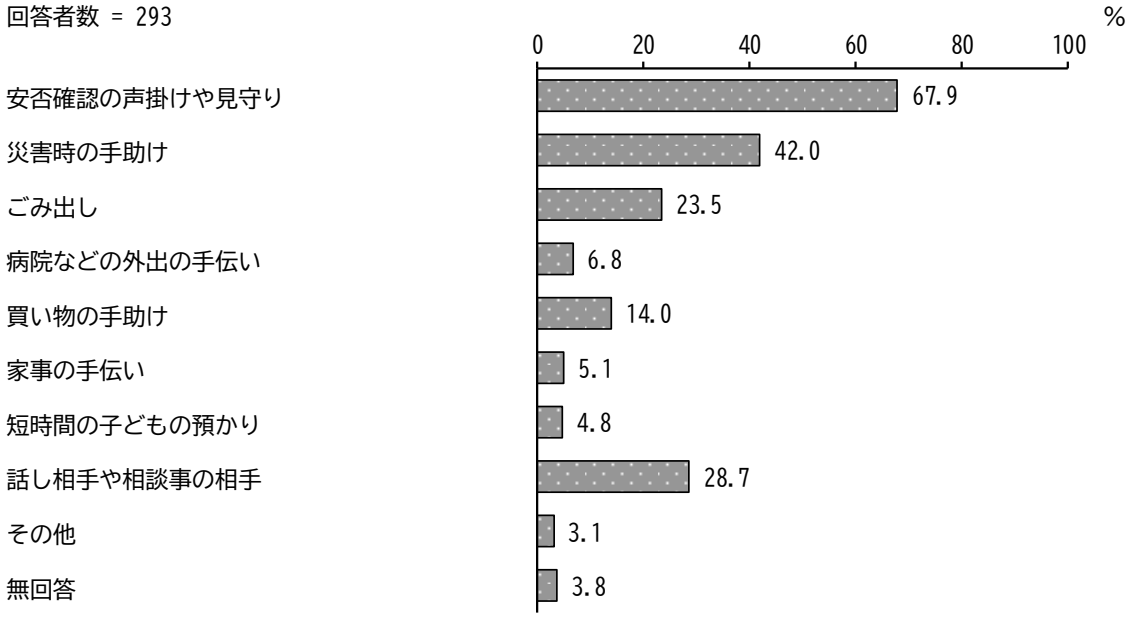
支援を必要としている人への支援については、「できる範囲で支援したい」と「支援をしたいが、余裕がない」の割合が28.7%と最も高く、次いで「支援をしたいが、何をすればいいかわからない」の割合が26.0%となっています。



問27で「１～４」のいずれかの回答をされた方に質問です。

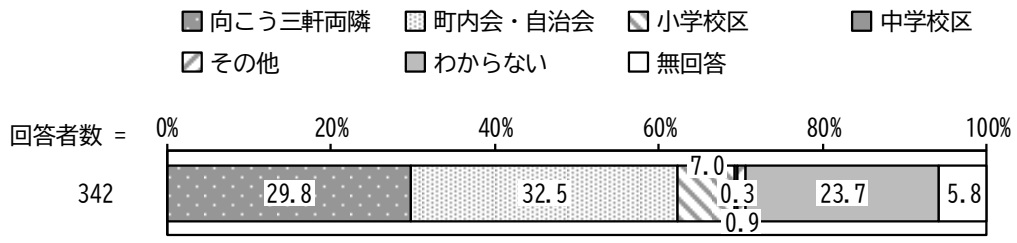
問 28　あなたはどのような手助けができると思いますか。【あてはまるもの全てに○】

支援を必要としている人がいたら支援をしたいと回答した人に、できると思う手助けをたずねると、「安否確認の声掛けや見守り」の割合が67.9%と最も高く、次いで「災害時の手助け」の割合が42.0%、「話し相手や相談事の相手」の割合が28.7%となっています。



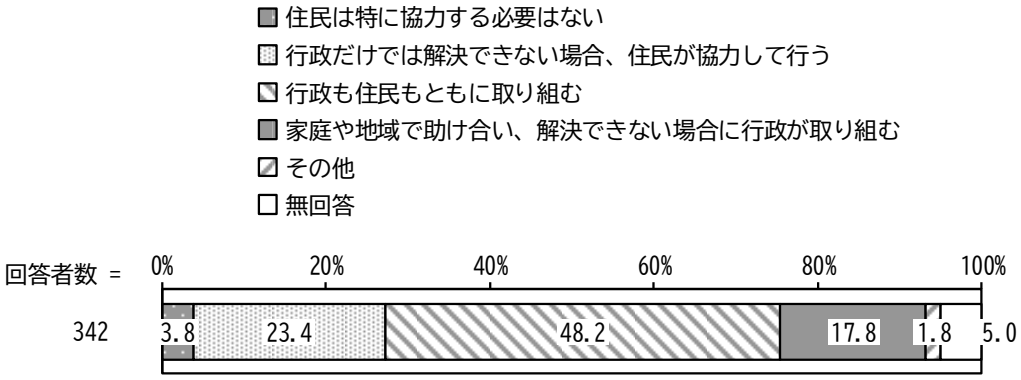
問 29　あなたにとって、住民が互いに助け合いをするとしたら、どの「範囲」が最もよいと思いますか。【１つだけに○】

助け合いの範囲については、「町内会・自治会」の割合が32.5%と最も高く、次いで「向こう三軒両隣」の割合が29.8%、「わからない」の割合が23.7%となっています。



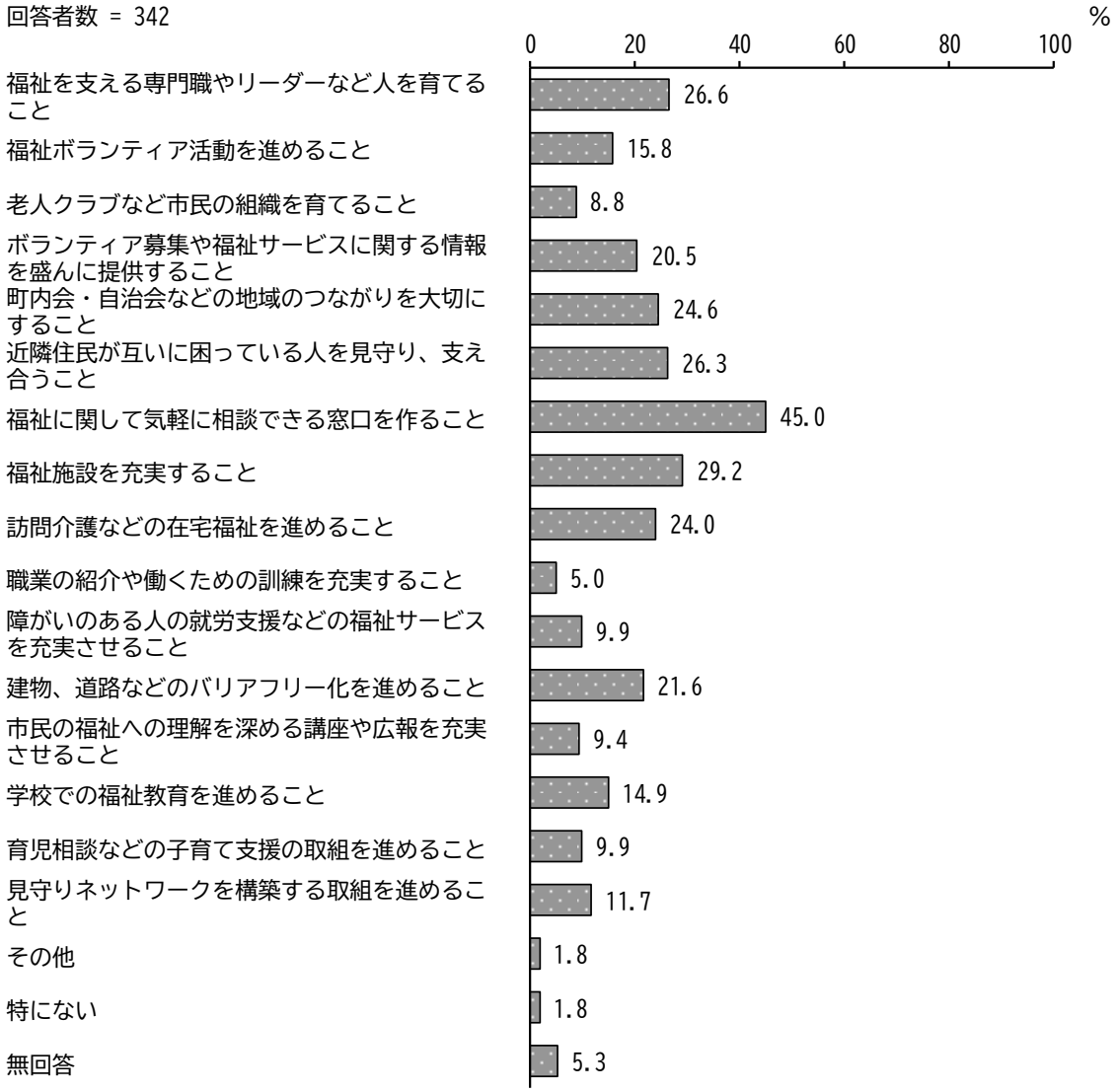
問 30　福祉の課題に関する行政と地域住民との関係について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。【１つだけに○】

福祉課題に関する行政と地域住民との関係性については、「行政も住民もともに取り組む」の割合が48.2%と最も高く、次いで「行政だけでは解決できない場合、住民が協力して行う」の割合が23.4%、「家庭や地域で助け合い、解決できない場合に行政が取り組む」の割合が17.8%となっています。



問 31　向日市でみんなが支え合いながら安心して暮らすためには、特にどのようなことが大切だと思いますか。【特に大切だと思うものを４つまで選んで○】

支え合いながら安心して暮らすために大切だと思うことについては、「福祉に関して気軽に相談できる窓口を作ること」の割合が45.0%と最も高く、次いで「福祉施設を充実すること」の割合が29.2%、「福祉を支える専門職やリーダーなど人を育てること」の割合が26.6%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代では「ボランティア募集や福祉サービスに関する情報を盛んに提供すること」と「近隣住民が互いに困っている人を見守り、支え合うこと」がともに30.8%で最も多く、30歳代では「学校での福祉教育を進めること」と「育児相談などの子育て支援の取組を進めること」がともに32.1%で最も多くなっています。40代以上では「福祉に関して気軽に相談できる窓口を作ること」が最も多く、３割以上を占めています。

また、「町内会・自治会などの地域のつながりを大切にすること」の割合は、80歳以上で最も高くなっています。

単位：%

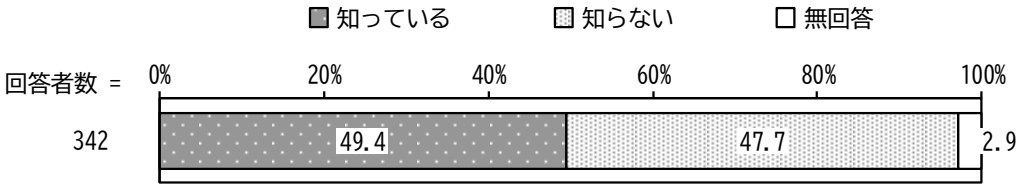
区分	回答者数（件）	福祉を支える専門職やリーダーなど人を育てること	福祉ボランティア活動を進めること	老人クラブなど市民の組織を育てること	ボランティア募集や福祉サービスに関する情報を盛んに提供すること	町内会・自治会などの地域のつながりを大切にすること	近隣住民が互いに困っている人を見守り、支え合うこと	福祉に関して気軽に相談できる窓口を作ること	福祉施設を充実すること	訪問介護などの在宅福祉を進めること
全　体	342	26.6	15.8	8.8	20.5	24.6	26.3	**45.0**	29.2	24.0
10歳代	3	**66.7**	**66.7**	33.3	33.3	－	33.3	－	33.3	－
20歳代	13	23.1	15.4	15.4	**30.8**	15.4	**30.8**	15.4	15.4	15.4
30歳代	28	14.3	10.7	3.6	21.4	25.0	25.0	28.6	14.3	14.3
40歳代	41	31.7	9.8	7.3	12.2	26.8	29.3	**39.0**	19.5	17.1
50歳代	59	25.4	6.8	5.1	18.6	20.3	32.2	**45.8**	28.8	25.4
60歳代	62	30.6	22.6	8.1	24.2	17.7	19.4	**56.5**	43.5	25.8
70歳代	71	25.4	21.1	7.0	22.5	26.8	26.8	**56.3**	26.8	29.6
80歳以上	58	25.9	13.8	15.5	20.7	34.5	20.7	**43.1**	34.5	27.6

区分	職業の紹介や働くための訓練を充実すること	障がいのある人の就労支援などの福祉サービスを充実させること	建物、道路などのバリアフリー化を進めること	市民の福祉への理解を深める講座や広報を充実させること	学校での福祉教育を進めること	育児相談などの子育て支援の取組を進めること	見守りネットワークを構築する取組を進めること	その他	特にない	無回答
全　体	5.0	9.9	21.6	9.4	14.9	9.9	11.7	1.8	1.8	5.3
10歳代	－	－	**66.7**	－	33.3	－	－	－	－	－
20歳代	15.4	7.7	15.4	7.7	7.7	23.1	－	－	－	7.7
30歳代	14.3	10.7	28.6	10.7	**32.1**	**32.1**	10.7	3.6	7.1	－
40歳代	2.4	17.1	17.1	2.4	24.4	12.2	17.1	2.4	－	9.8
50歳代	6.8	11.9	25.4	13.6	18.6	11.9	16.9	3.4	1.7	5.1
60歳代	6.5	11.3	14.5	9.7	11.3	9.7	12.9	1.6	1.6	4.8
70歳代	2.8	5.6	23.9	8.5	9.9	2.8	8.5	－	1.4	4.2
80歳以上	－	8.6	24.1	8.6	3.4	1.7	10.3	1.7	1.7	5.2

（６）社会福祉協議会について

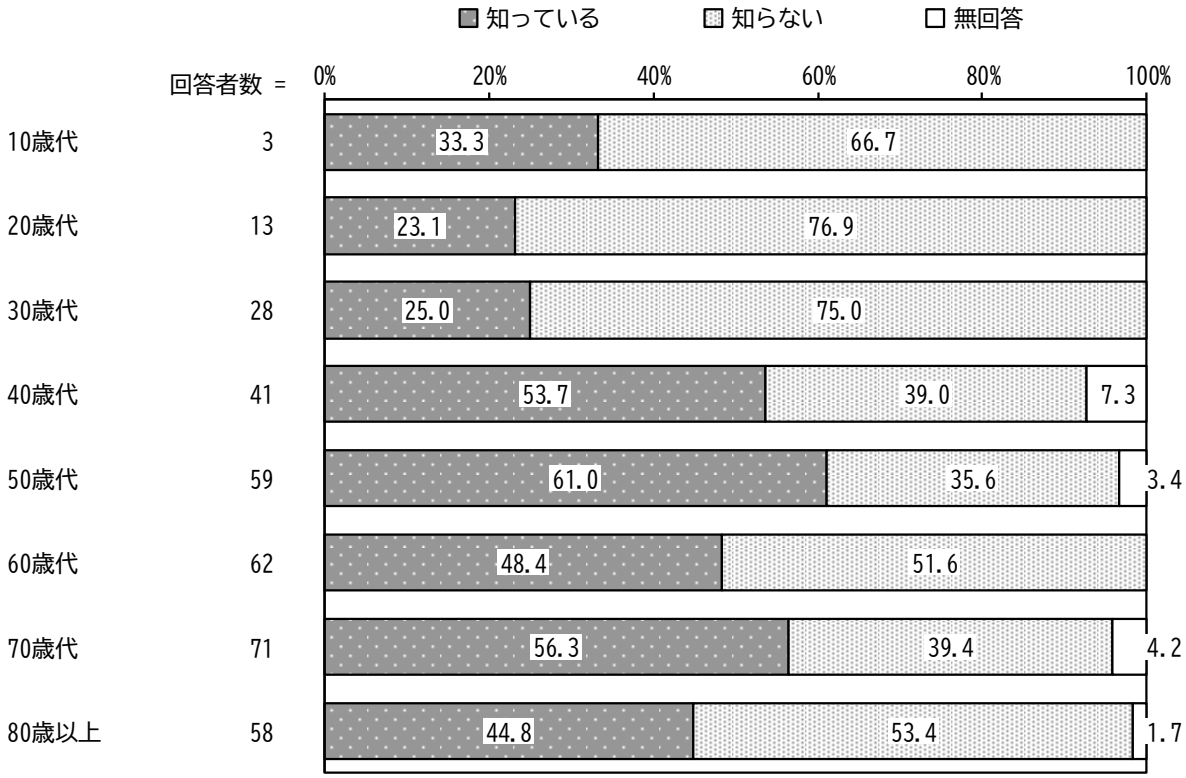
問 32　あなたは、向日市社会福祉協議会のことを知っていますか。【１つだけに○】

向日市社会福祉協議会の認知度については、「知っている」の割合が49.4%、「知らない」の割合が47.7%となっています。



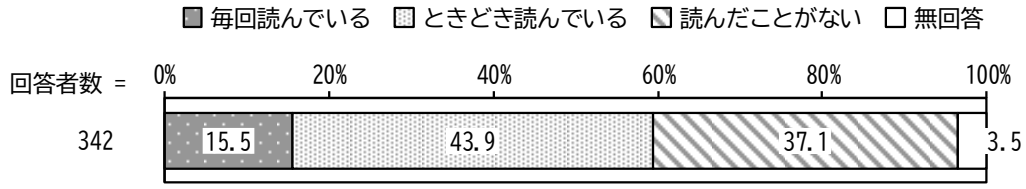
【年齢別】

年齢別にみると、「知っている」の割合は、40歳代以上で４割以上と高く、50歳代が61.0%で最も高い割合となっています。



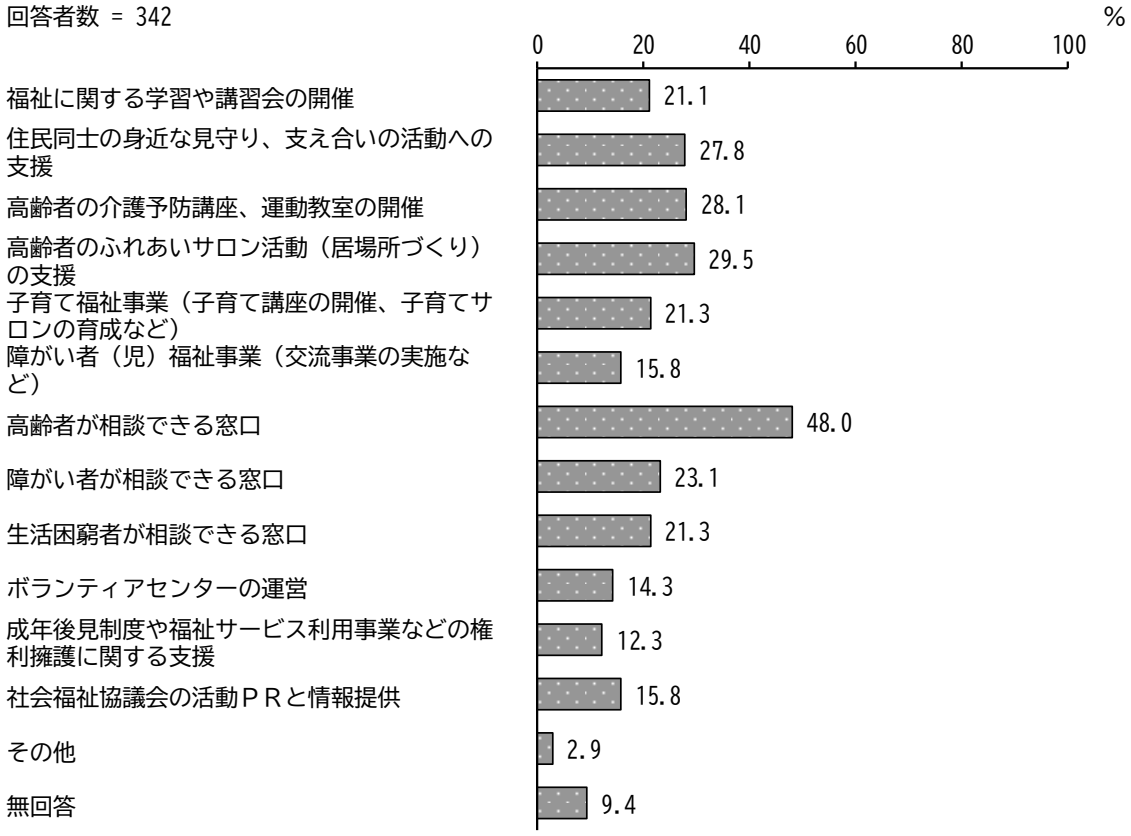
問 33　あなたは、向日市社会福祉協議会が発行している広報誌「福祉パレット」を読んでいますか。【１つだけに○】

広報誌「福祉パレット」を読んでいるかについては、「毎回読んでいる」の割合が15.5%、「ときどき読んでいる」の割合が43.9%、「読んだことがない」の割合が37.1%となっています。



問 34　向日市社会福祉協議会が行う活動や支援で充実してほしい項目を選択してください。【あてはまるもの全てに○】

向日市社会福祉協議会が行う活動や支援で充実してほしい項目については、「高齢者が相談できる窓口」の割合が48.0%と最も高く、次いで「高齢者のふれあいサロン活動（居場所づくり）の支援」の割合が29.5%、「高齢者の介護予防講座、運動教室の開催」の割合が28.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代と40歳代では「住民同士の身近な見守り、支え合いの活動への支援」、30歳代では「子育て福祉事業（子育て講座の開催、子育てサロンの育成など）」がそれぞれ最も多く、50歳代以上では「高齢者が相談できる窓口」が最も多くなっています。

また、「高齢者のふれあいサロン活動（居場所づくり）の支援」、「高齢者が相談できる窓口」、「障がい者が相談できる窓口」、「生活困窮者が相談できる窓口」の割合は、いずれも60歳代が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	福祉に関する学習や講習会の開催	住民同士の身近な見守り、支え合いの活動への支援	高齢者の介護予防講座、運動教室の開催	高齢者のふれあいサロン活動（居場所づくり）の支援	子育て福祉事業（子育て講座の開催、子育てサロンの育成など）	障がい者（児）福祉事業（交流事業の実施など）	高齢者が相談できる窓口	障がい者が相談できる窓口	生活困窮者が相談できる窓口	ボランティアセンターの運営	成年後見制度や福祉サービス利用事業などの権利擁護に関する支援	社会福祉協議会の活動ＰＲと情報提供	その他	無回答
全　体	342	21.1	27.8	28.1	29.5	21.3	15.8	**48.0**	23.1	21.3	14.3	12.3	15.8	2.9	9.4
10歳代	3	**33.3**	**33.3**	**33.3**	**33.3**	**33.3**	－	－	－	－	**33.3**	**33.3**	**33.3**	**33.3**	－
20歳代	13	30.8	**46.2**	15.4	15.4	38.5	15.4	15.4	30.8	30.8	23.1	7.7	7.7	7.7	7.7
30歳代	28	25.0	28.6	17.9	14.3	**50.0**	3.6	17.9	3.6	10.7	10.7	7.1	3.6	3.6	3.6
40歳代	41	14.6	**31.7**	22.0	29.3	29.3	24.4	17.1	17.1	7.3	9.8	7.3	9.8	4.9	12.2
50歳代	59	25.4	25.4	37.3	30.5	20.3	20.3	**57.6**	30.5	23.7	22.0	23.7	15.3	1.7	6.8
60歳代	62	29.0	27.4	35.5	41.9	30.6	24.2	**64.5**	43.5	45.2	22.6	16.1	19.4	1.6	3.2
70歳代	71	14.1	23.9	22.5	25.4	8.5	12.7	**60.6**	16.9	21.1	8.5	7.0	21.1	2.8	11.3
80歳以上	58	15.5	25.9	31.0	32.8	3.4	8.6	**51.7**	15.5	8.6	8.6	8.6	19.0	1.7	15.5

【同居している家族別】

同居している家族別にみると、高校生、65歳以上の人、認知症の人、介護を必要とする人、身体障がいのある人では「高齢者が相談できる窓口」が最も多く、身体障がいのある人では同率の63.2%で「障がい者が相談できる窓口」が最も多くなっています。

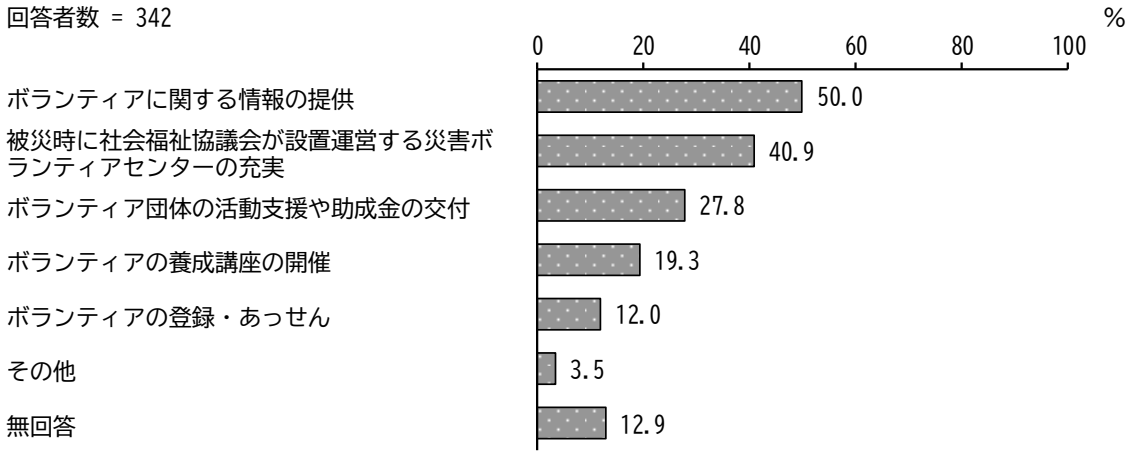
また、「住民同士の身近な見守り、支え合いの活動への支援」の割合は、小学生・中学生が35.4%で最も高く、「高齢者の介護予防講座、運動教室の開催」の割合は、認知症の人が50.0%で最も高く、次いで介護を必要とする人が46.2%となっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	福祉に関する学習や講習会の開催	住民同士の身近な見守り、支え合いの活動への支援	高齢者の介護予防講座、運動教室の開催	高齢者のふれあいサロン活動（居場所づくり）の支援	子育て福祉事業（子育て講座の開催、子育てサロンの育成など）	障がい者（児）福祉事業（交流事業の実施など）	高齢者が相談できる窓口	障がい者が相談できる窓口	生活困窮者が相談できる窓口	ボランティアセンターの運営	成年後見制度や福祉サービス利用事業などの権利擁護に関する支援	社会福祉協議会の活動PRと情報提供	その他	無回答
全　体	342	21.1	27.8	28.1	29.5	21.3	15.8	**48.0**	23.1	21.3	14.3	12.3	15.8	2.9	9.4
小学校入学前の子ども	22	27.3	36.4	18.2	13.6	**68.2**	13.6	9.1	9.1	13.6	13.6	13.6	－	－	4.5
小学生･中学生	48	22.9	**35.4**	16.7	18.8	33.3	14.6	14.6	10.4	6.3	12.5	8.3	10.4	4.2	12.5
高校生	28	25.0	28.6	21.4	21.4	10.7	10.7	**35.7**	17.9	10.7	25.0	10.7	14.3	7.1	7.1
65歳以上の人	111	22.5	29.7	34.2	33.3	19.8	18.0	**64.0**	29.7	30.6	15.3	14.4	20.7	2.7	8.1
認知症の人	12	50.0	－	50.0	41.7	8.3	8.3	**58.3**	25.0	8.3	－	8.3	8.3	－	8.3
介護を必要とする人	26	15.4	15.4	46.2	26.9	11.5	11.5	**53.8**	23.1	11.5	3.8	15.4	7.7	3.8	7.7
身体障がいのある人	19	31.6	31.6	42.1	36.8	10.5	21.1	**63.2**	**63.2**	15.8	－	5.3	5.3	－	－
知的障がいのある人	7	28.6	14.3	14.3	28.6	28.6	**85.7**	28.6	71.4	42.9	－	28.6	－	－	－
精神障がいのある人	12	25.0	33.3	41.7	58.3	25.0	58.3	66.7	**75.0**	66.7	25.0	50.0	16.7	－	－
ひきこもりの人	3	－	**33.3**	－	－	－	－	－	**33.3**	－	－	－	**33.3**	**33.3**	**33.3**
いずれもいない	109	19.3	28.4	27.5	32.1	17.4	14.7	**55.0**	22.9	24.8	17.4	11.9	15.6	1.8	9.2

問 35　ボランティア活動に関して、向日市社会福祉協議会に望む項目を選択してください。
【あてはまるもの全てに○】

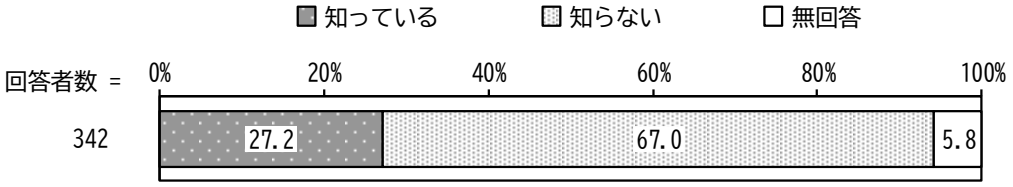
ボランティア活動に関して、向日市社会福祉協議会に望む項目については、「ボランティアに関する情報の提供」の割合が50.0%と最も高く、次いで「被災時に社会福祉協議会が設置運営する災害ボランティアセンターの充実」の割合が40.9%、「ボランティア団体の活動支援や助成金の交付」の割合が27.8%となっています。



（7）こころの健康や自殺対策について

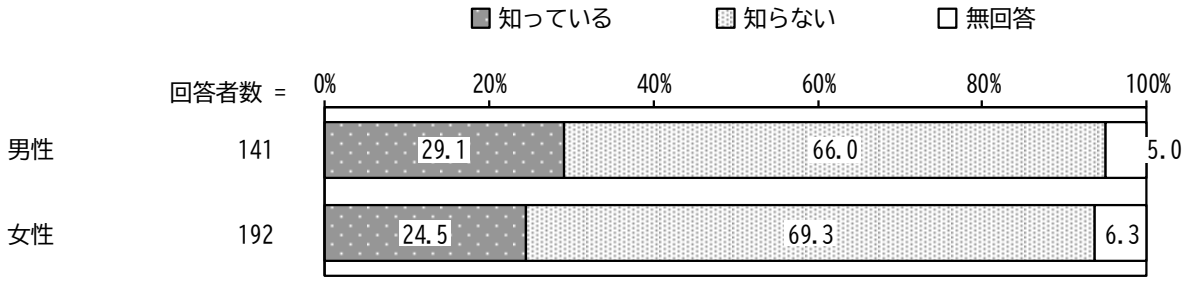
問 36　あなたは毎年、国内では２万人を超える方、京都府内でも 400 人前後の方が自殺で亡くなっていることを知っていますか。【１つだけに○】

自殺者数の認知度については、「知っている」の割合が27.2%、「知らない」の割合が67.0%となっています。



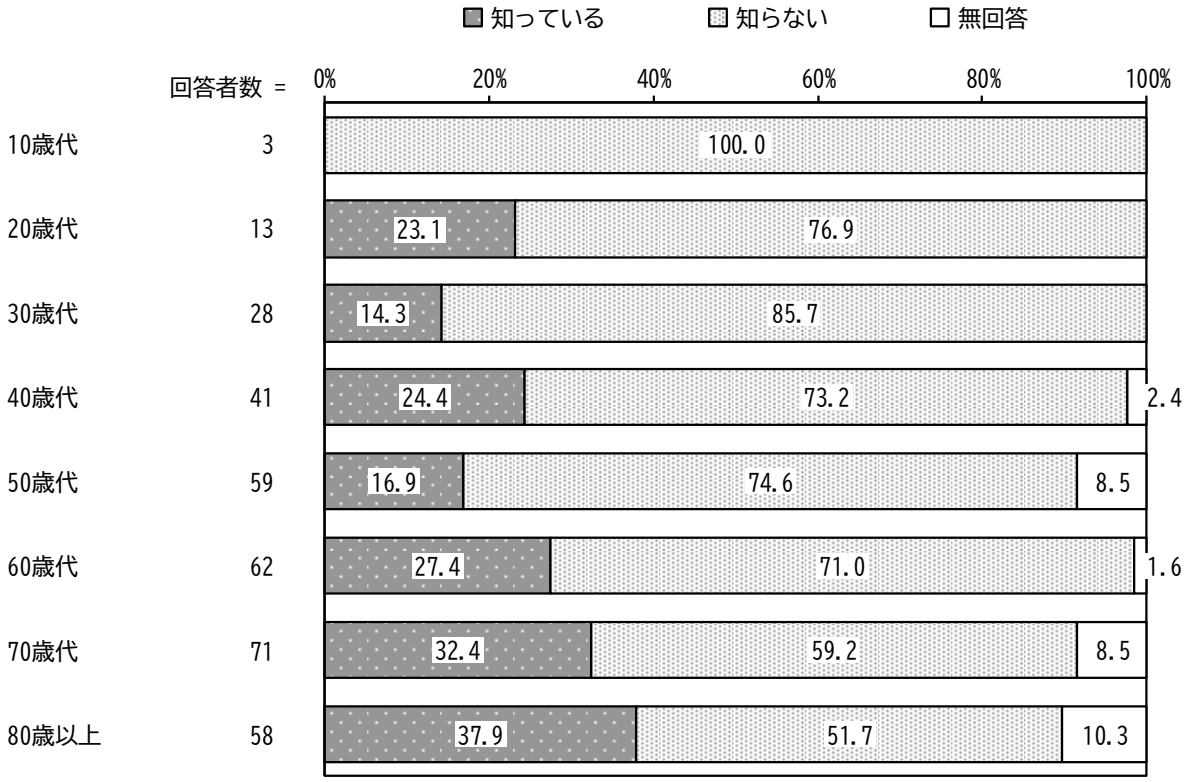
【性別】

性別にみると、「知っている」の割合は、女性（24.5%）より男性（29.1%）のほうが4.6ポイント高くなっています。



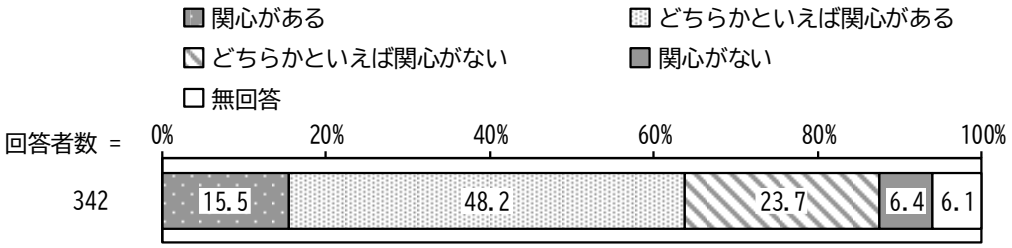
【年齢別】

年齢別にみると、「知っている」の割合は、概ね高齢になるほど高くなる傾向がみられ、80歳以上が37.9%で最も高くなっています。



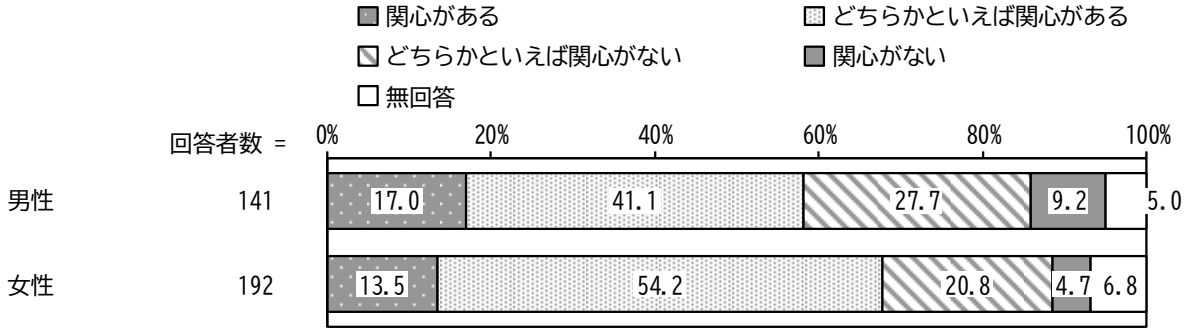
問 37　自殺問題に対してあなたは関心がありますか。【１つだけに○】

自殺問題に対する関心については、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が63.7%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が30.1%となっています。



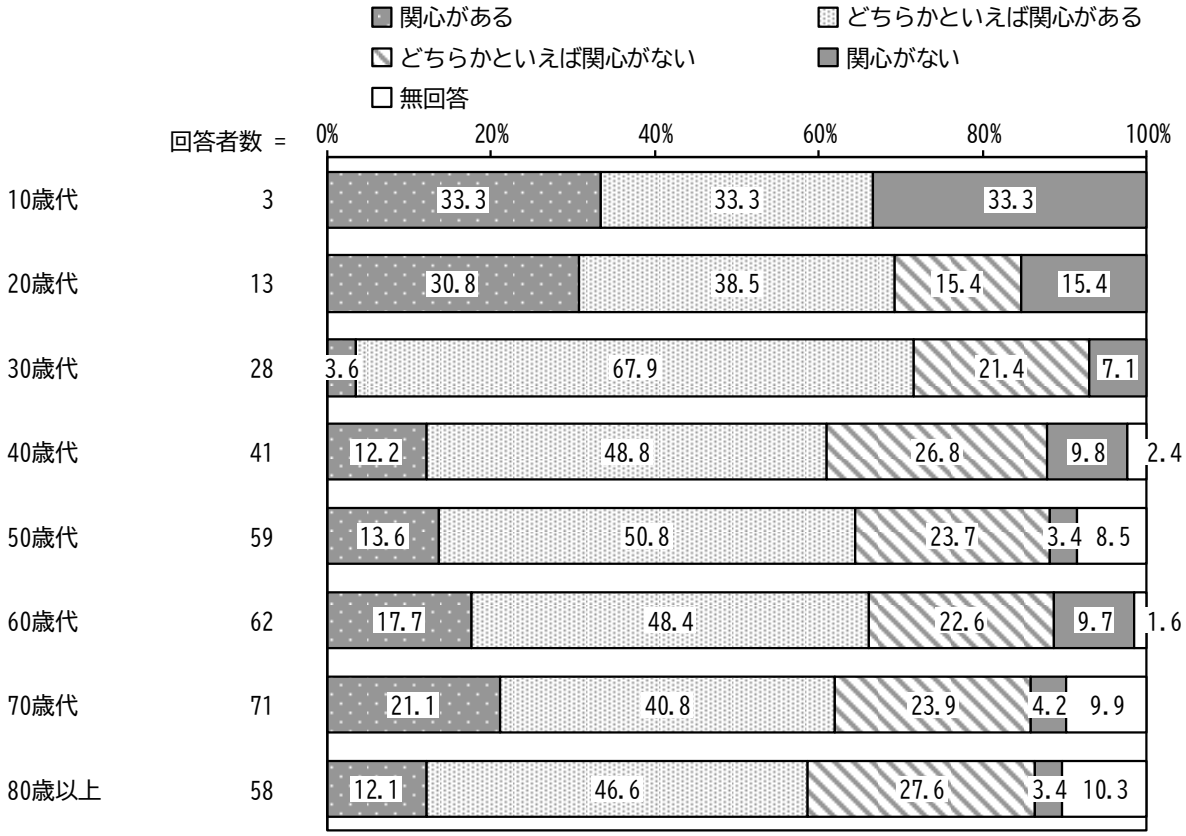
【性別】

性別にみると、“関心がある”の割合は、男性（58.1%）より女性（67.7%）のほうが9.6ポイント高くなっています。



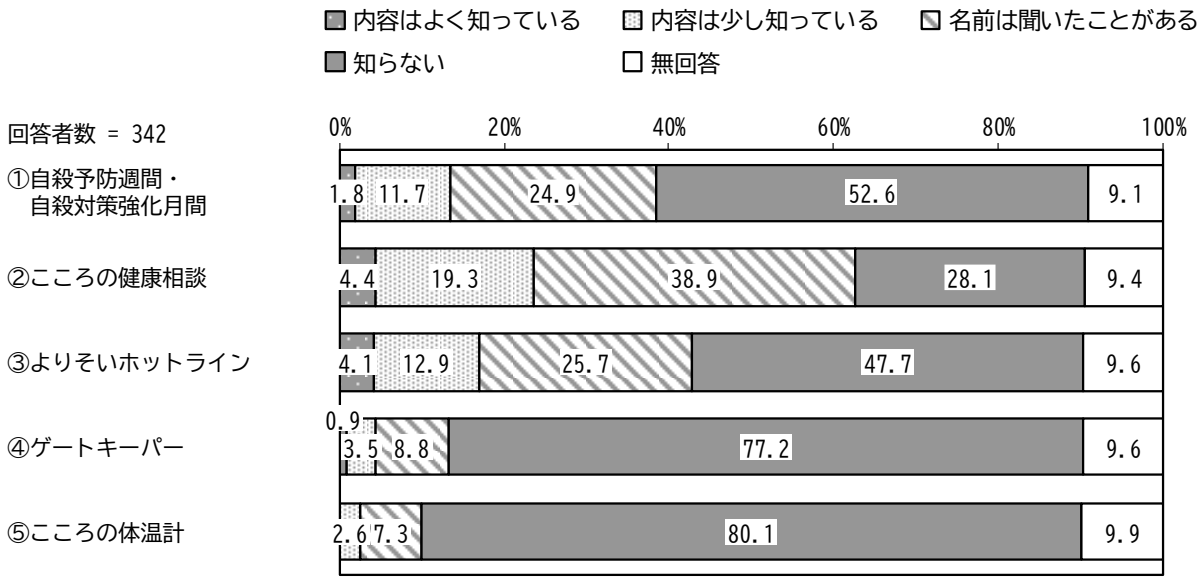
【年齢別】

年齢別にみると、“関心がある”の割合は、30歳代が71.5%で最も高く、次いで20歳代が69.3%となっています。一方、“関心がない”の割合は、40歳代が36.6%で最も高くなっています。



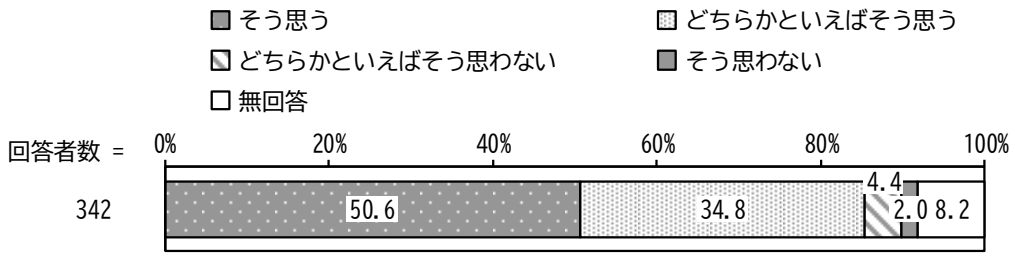
問 38　自殺対策に関する次の事柄について知っていますか。【それぞれ１つだけに○】

自殺対策に関する事柄についてたずねたところ、「内容は少し知っている」の割合は、『②こころの健康相談』が4.4%で最も高く、「内容は少し知っている」、「名前は聞いたことがある」をあわせた認知度も『②こころの健康相談』が62.6%で最も高く、次いで『③よりそいホットライン』が42.7%となっています。一方、「知らない」は『⑤こころの体温計』が80.1%で最も高く、次いで『④ゲートキーパー』が77.2%、『①自殺予防週間・自殺対策強化月間』が52.6%となっています。



問 39　あなたは、児童・生徒が自殺予防について学ぶ機会があったほうがよいと思いますか。【１つだけに○】

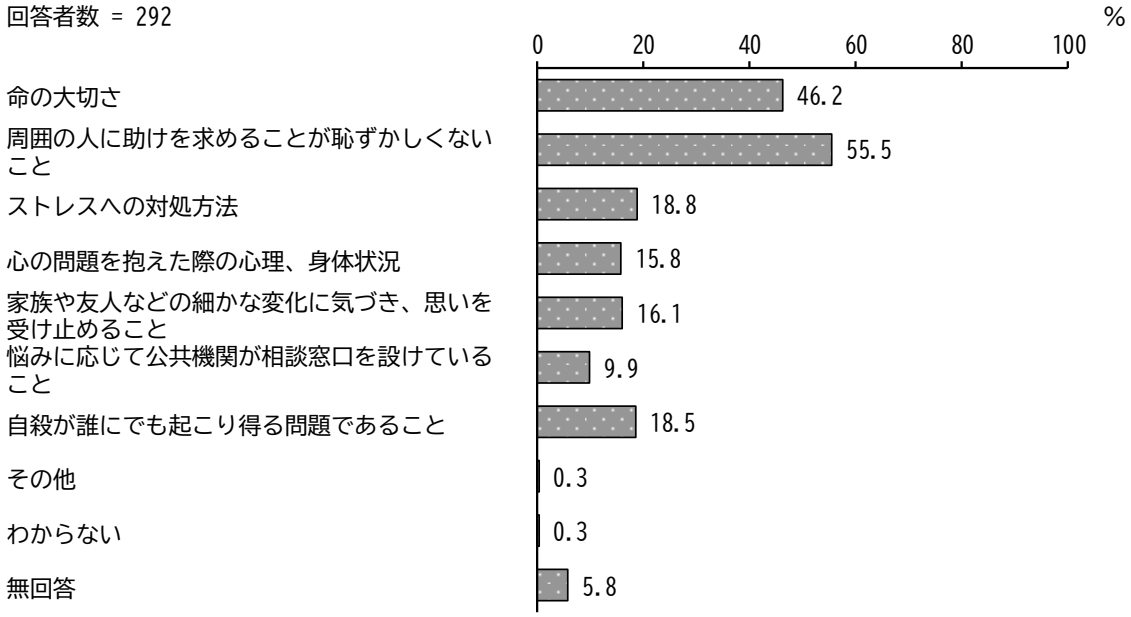
児童・生徒が自殺予防について学ぶ機会があったほうがよいかについては、「そう思う」が50.6%で最も多く、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合は85.4%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合は6.4%となっています。



問39で「１、２」のいずれかの回答をされた方に質問です。

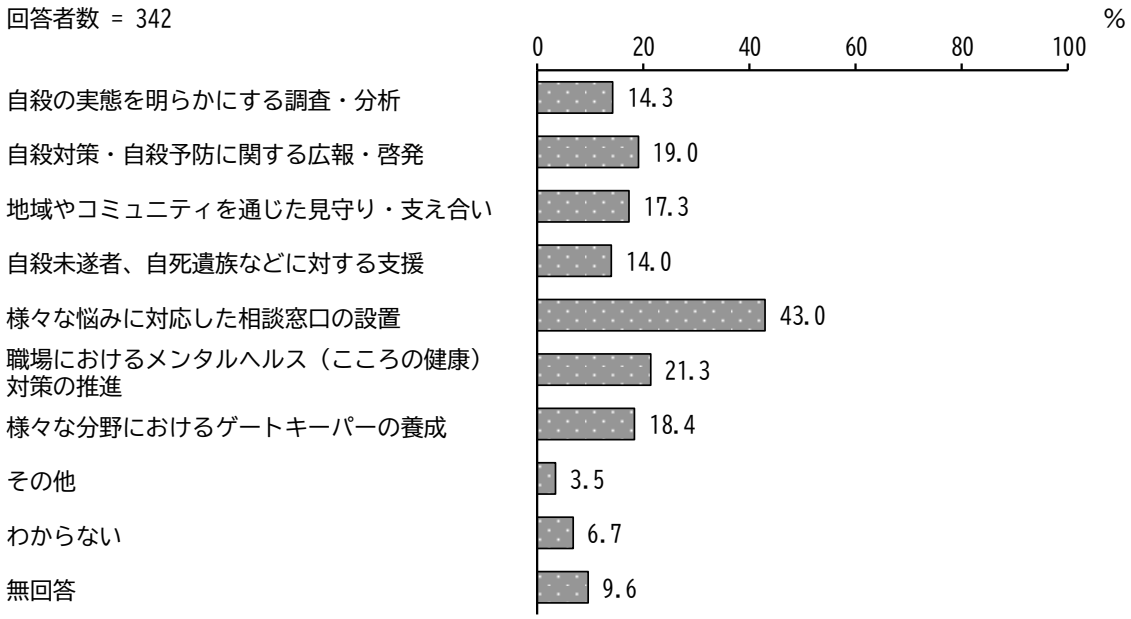
問 40　児童・生徒がどのようなことを学べば、自殺予防に役立つと思いますか。
【特に大切だと思うものを２つまで選んで○】

児童・生徒が自殺予防について学ぶ機会があったほうがよいと回答した人に、自殺予防に役立つと思う学びについてたずねると、「周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと」の割合が55.5%と最も高く、次いで「命の大切さ」の割合が46.2%、「ストレスへの対処方法」の割合が18.8%となっています。



問 41　今後、どのような自殺対策が必要になると思いますか。
【特に大切だと思うものを２つまで選んで○】

今後、必要になると思う自殺対策については、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」の割合が43.0%と最も高く、次いで「職場におけるメンタルヘルス（こころの健康）対策の推進」の割合が21.3%、「自殺対策・自殺予防に関する広報・啓発」の割合が19.0%となっています。



（8）地域福祉の推進について

問 42　地域福祉の推進に関して意見や要望などがあれば自由に記入してください。

地域活動や地域における助け合いについて（意見例）

〇社会福祉、自治体ボランティアを実施するためには地域住民の協力が必要だが、ゴミ出しのルールが守られていないなど、実際にはなかなか協力が得られていない。

〇町内を担当する民生委員の名前がわからない。

〇地域のつながりは必要だが、役員の高齢化により町内会の存続できるか心配。

〇コロナ禍以降、近所付き合いが希薄になっている。

〇人口減少が今後見込まれるなか、ボランティアや町内会など気持ち（善意）に頼ることは難しくなってきている。高齢世帯が増え、役の担い手が減っている。行政を含め本気で地域福祉について考えないと地域が崩壊してしまうと思う。

〇近隣者も高齢者が多いが、互いに遠慮し合っているため、手助け等は難しいと感じている。

〇ボランティア活動の敷居が低くなるような入門講座を頻繁に開催してほしい。

福祉等に関する考え方について（意見例）

〇まず自身が他人の手を借りなくても暮していける様にするのが先決だと思う。

〇いろいろな人がいて、いろいろな考えがあるからこそ、「対話」が大切。「無関心」でいられても、「無関係」ではない。「知る」ことも大事だと思う、「知るきっかけ」が大事だと思う。

〇高齢化社会で支援の必要な高齢者や身寄りのない高齢者も増えている。行政と地域、地域の中で活動されている民間のボランティア団体等がつながり合うことで、誰もがとりこぼされない地域社会にしていきたい。

相談支援等について（意見例）

〇少しでも、困り事があれば、近くの人が気付いてあげて、相談に乗ってあげられる「システム作り」が大切だと思う。また、気付いてあげられた時は、その時にどう対処してあげられるかを「すぐに判断し、実行に移す事が出来る体制」を作っておく必要がある。現状では、「行動を起こすまでの時間」がかかりすぎているように思う。

〇市役所の窓口で安心して相談できる職員を増して欲しい。

〇市役所で、障がい者の窓口などで丁寧な対応をしてほしい。

〇言葉にも出さず、本当に困っている方がたくさんいると思う。そんな方を探し出すのはとても難しいと思うが、そういった方に是非寄り添ってほしい。

〇ご近所であるからこそ、この時勢、他人の家に入ることは難しいのではないかと思う。手助けを必要とする方のプライバシーをどう守るかは課題だと思う。ご近所だからこそ知られたくない事はあるのではないか。相談できる所があり、相談できたことで救われた人、家族もたくさんいると思いますが、思いつめ行動を起こす人が相談に来るのか。悲しいニュースを聞いて、いつも疑問に思う。

防災について（意見例）

〇南海トラフ地震などに備えて、公園などでの炊き出しやテント泊などシミュレーションは大切だと思う。日々の訓練を積み重ねておけば、いざという時に気持ちに余裕もでてくる。今はペットをかっている家庭も多いが、いざ避難となるとペットがいると避難もしにくくなると思う。大がかりで市として避難訓練をするべきではないか。

情報提供について（意見例）

〇広報も字が小さいと読みにくい。細かい字では、大事なこともつい飛ばしてしまう。全てを読めないのでこれだけは必須のところにマークをつけてくれるとありがたい。

〇市民１人１人が、地域の将来、自分の将来について手助けとなる啓蒙活動を取り組んで欲しい。

〇高齢者には福祉は大事な問題。自分に出来る事、出来ない事などもっと情報がほしい。

〇活動に参加する人がそれぞれ自分にメリットがあると感じられなければ推進は活発になりにくいと思う。他人事ではいけない。自分ごとにするため、たくさんの知る機会をつくってほしい。ＷＥＢやＳＮＳをもっと活用すれば身近になると思う。

〇地域福祉でどのような活動をしているのかよく知らない。ＳＮＳや地域のイベントで広報活動を行う等、もっと 20～40 代の世代にも広くアピールする必要があるのではないかと感じた。

〇50 才､40 才位で会社としか社会活動のない生活をしている世代に､少し入りやすい活動を教えてもらったり、活動できるところを作ってほしい。

〇当事者になって初めてその分野について調べたり、興味を持つと思う。その時にすぐに情報提供できることが大事だと思う。

移動手段について（意見例）

〇高齢で足が不自由のため、思う様に参加出来無いのが残念。

交流について（意見例）

〇独り暮らしで将来に不安。地域に知り合いもいないので交流が持てる場を使って欲しい。

〇外に出て人と会話する場へ行くことや、お金をかけずに運動ができるところを探して行きたい。

その他（意見例）

〇今後、高齢者のひとり暮らしがますます、増えていくと思う。孤独死のないように、見守っていただけるような体制を作ってほしい。

〇市民の意識が低いと感じる。向日市が住み良い町になれるよう、私自身が福祉に協力できるよう努めていきたい。

〇障がいのある人の親が亡くなった後の支えについても、早急な対策が必要である。

〇ヤングケアラー対策にもっと視点をあてて、具体的な対策をしてほしい。

〇子育てする上では向日市はとても子育てしやすい環境が整っていると思う。

〇自分があまりにも地域福祉について知らない事（関心がなかった）に驚いた。地域福祉について関心を寄せるいい機会になった。

〇子育て支援に期待。